

# 迎陽記 (康曆元年〜応永八年) 翻刻

(凡例)

一、康曆元年・同二年は、京都大学附属図書館蔵永和日次之記(菊亭本、室町前期写 一冊 菊・エ・九)を底本とした。応永五年および同八年七月〜九月は、宮内庁書陵部蔵迎陽記(藤波本、三冊、江戸中期写 二一七―四〇八)を底本とし、京都大学附属図書館蔵迎陽記(菊亭本、江戸前期写 三冊 菊・ケ・六)をもって校合した(略号キ)。応永八年正月〜三月は宮内庁書陵部蔵迎陽記(江戸中期写 九冊 柳・三三三)を底本とし(略号ヤ)、国立公文書館内閣文庫蔵薩戒記(和学講談所本、江戸中期写 二冊 一六二・二〇六)をもって校合した(略号ナ)。

一、底本原文の細字は「<」、小字双行は「>」で括った。

一、底本原文における傍書・補入は「<sup>〃</sup>」に入れてその直前に置いた。

一、底本における字句の欠落は、字数をはかつて□で、字数不明の場合は「<sup>〃</sup>」によって示した。

一、底本と本文異同がある箇所については、異本の本文を「<sup>〃</sup>」で括り、略号をもってその異本を示し、右傍に注した。また宛字・明らかな誤写と思われる文字についても、正しいと思われる文字を「カ」として傍注した。底本の脱字を他本で補った場合は同様に本文中に「<sup>〃</sup>」で括り示した。

一、私に施した注記は全て「<sup>〃</sup>」に入れた。

附記 翻刻許可を賜った京都大学附属図書館・宮内庁書陵部に篤く御礼申し上げる。

(康曆元年)

(正月)

(二日、前朔)

□道勤文之時、有忌日無忌月之由、大外記師遠勘奏之歎、神木□洛之時、又以帳中出御例繁多也、但被尋 関白 以下、先規又被召両局勘奏、可有治定哉之由、内々 准后 被執奏申、雖然 猶有御斟酌氣歎、仍今度不可有出御之由、治定了、御意見統左、兼治内々注進天永例在裏、

七日節会可有帳中出御事、

凡御忌月無出御之条、通例也、但天永御元服後宴、及諸道勤文有出御、以彼准據、元亨豊明節会、雖御忌月、及群議、有帳中之出御、古今准據如此、今度依彼例、出御簾中何事之有哉、天永三年被召諸道勤文之時、有忌日無忌月之由、大外記師遠勘奏之歎、神木入洛之時、又以帳中出御例繁多也、但先規又可被召両局勘奏歎、

三日 辛未、晴、参殿中、条々以浜名右京亮詮政被仰 右幕下、大概被注御折紙、予書之、

一、七日御参会あるへき事、(内裏内々の儀の事、)

一、左府 出仕いまた不構得事、

一、御監宣下事、

七日節会已前可有宣下、外記管ニ入れて可持参、宣下をとめられて管をかへさるへし、禄物ことき先規ハ不分明候、

一、七日当日節会已前ニ、白馬の奏と申物を可持参候、奥の御位署のしたニ、御名字を被載て可返給事、

一、御監宣旨并白馬奏の案文など御らんありたく候ハ、可遣哉事

一、右近年預の次将と申事いまた補せられ候ハ、これより其仁を可举申事、

叙位勤文、師香不覽申准后、為何様哉之由、被尋之處、請文云、建長五年以後大殿《岡屋殿》御坐之時、別不及進上、毎年正月一日参仕殿下《照念院殿》、内覧勤文、又持参仙洞、内々進上之由、師光朝臣記置云々、於他御流例者不可有御用、御当家内覧宣旨令蒙給、毎年覽之、猶可覽之由被仰之間覽之、内々付給之、

四日 壬申、晴、今日自右幕下浜名為申昨日御返事参殿中云々、左府七日無御出仕者尤以無念、御出立誠察申入、乏少之至、雖憚存、内々可執進之由、仰付詮政万足進入之、雖無餘日、可有構御参之由被仰云々、七日出仕料、左大将 雖申武家訪、不許、又旧冬行幸沙汰之時、九条中納言中将殿雖被仰御訪、不進之由有其聞、御出

不許、又旧冬行幸沙汰之時、九条中納言中将殿雖被仰御訪、不進之由有其聞、御出



- 兵二 源朝臣具言
- 兵三 源朝臣公行
- 式三 藤原朝臣經重
- 從四位下
- 兵四 藤原朝臣通種
- 兵五 藤原朝臣教冬
- 兵五 大中朝臣基直
- 兵五 源朝臣通宣
- 從五位上
- 式六 中原朝臣師豐
- 式七 中原朝臣師胤
- 式八 藤原朝臣実卿
- 式九 平朝臣親繼
- 式十 賀茂朝臣定栄
- 從五位下
- 式十一 資高王 寛和御後
- 式十一 大藏朝臣種元 式部
- 式十二 藤原朝臣重暈 民部
- 式十三 源通守 天曆御後
- 式十四 藤原朝臣時貞 氏
- 式十五 橘朝臣知義 氏
- 式十六 藤原朝臣重胤 無品 治子内親王請
- 式十七 藤原朝臣顯雄 無品 昭子内親王請
- 式十八 藤原朝臣範季 從一位 藤原朝臣請
- 式十九 源朝臣兼良 大藏
- 式二十 藤原朝臣尚光 式部
- 式二十一 中原朝臣忠俊 諸司
- 式二十二 平朝臣景茂 諸司
- 兵六 藤原朝臣永吉 右近
- 兵七 源朝臣貞村 外衛
- 兵八 三善朝臣清俊 外衛
- 式二十三 定清王
- 式二十四 大中朝臣吉重

- 式廿五 源朝臣景長
- 式廿六 源朝臣行宣
- 式廿七 藤原朝臣長倫
- 式廿八 卜部宿禰兼音 内
- 永和五年正月六日

七日 乙亥、天晴、叙位議今日未刺事了、退出、聊啜菜羹、參殿中、御出事為申沙汰也、御次第余書之、其後御習禮、内弁叙列御作法俄出来、天慶以來雖存其例、邂逅、亥剋准后先御参内、八葉御車、前驅番頭等先被渡之、御衣冠下也、右幕下已参内云々、於台盤所御对面俄也、左府又御参、自夜景雨降、殿上人二人、御少將一、御少將一、於陣辺皆参会、前驅二人、衛府長秦延任、番頭六人、御牛飼御車副二人等也、先有転任御拜賀、依雨於中門下有御拜、申次朝成也、近衛次將依為流例也、其後御堂上、此間右幕下被召常御所賜一献、御前祇候人々、准后、右大将、典侍一人、藤中納言、左大弁宰相、三宝院僧正等候廂、資藤・資国、重光等役送、御破子等有之、初度主上、准后各盃、於天盃者直賜右大将、准后御盃次第巡流云々、前右大臣雖祇候、初間不被召、六献之時被召御前云々、一七献之時、右大将参御杓、則又以天杓賜右大将、賜御劍、大将自取之、退於台盤所前、渡中御門宰相、々々渡細河九郎云々、今夜一献左大弁宰相奉行畢、右大将祇候御酒宴、珍重々々、兩儀節会不可有見所、暫可被相待晴之由有沙汰、右大将損事休息二品局、及数剋、難知晴天之間、左府先着陣、下吉書、其後召外記、師香参進奏外任奏、此間猶甚雨、先可有御参之由被申之間、左府又御堂上、諸卿着陣、余、經重朝臣在床子座、散乱、兩脚休止、節会欲始、左府御着陣、諸卿着陣、余、經重朝臣在床子座、白馬節会

- 公卿
- 左大臣 洞院大納言 大炊御門大納言 中院中納言 藤中納言 新藤中納言 一条宰相中將 葉室宰相 四条宰相 中御門宰相 葉室新宰相 左大弁宰相 具言朝臣 少納言 弁 秀長朝臣 經重朝臣
- 次將 季興朝臣 雅氏 顯資
- 右

基明朝臣 公仲朝臣 教冬朝臣 朝成

十三日 辛巳、城南修正、伝聞、長者大卿・家君、在賈・淳嗣等朝臣参着云々、十九日 丁亥、天陰風寒、今夜子刻日野大納言忠光御掃泉、水腫所勞及累日、此間興盛、今日俄荒痢、氣力衰、遂以眼閉、存生之時申入之間、被授從一位了、去年比任槐事武家可奏聞之由有風聞、凡一品事彼家初例也、「忠功之臣、和漢之才、可惜々々、年輪四十六也、」按察使兼綱御、今日叙從一位、是又珍重之朝獎也、齡忠光御拜叙之間、称超越、以次達本望歟、長頭御被超越、無念々々、

廿二日 戊子、謁前藤中納言保光御、弔忠光御事了、廿四日 壬辰、家君御不例同御躰也、禁裏被開食及、被召下典藥頭広成朝臣、病躰不違長世朝臣申旨、十種白朮散相応之由申之、可調給之由申之、勸一献遣引出了、直参御所、可披露事之様由、申之、

廿五日 癸巳、深雪六七寸、近来春季不見如此、深雪豊年兆、珍重々々、家君御病躰同御躰也、自方々病氣問状到来、返報一身計會、廿六日、今年未礼参之間、御祈禱相兼参聖廟、此病躰無心元、且御所様御不審片時可立寄云々、仍参典侍局申事之子細了、為補看病氣、被出一盞、

廿八日 丙申、雨雪終日、酉刻自禁裏女房奉書到来、家君違例事被仰下、又明日御八講不事行之間、可為御經供養、御願文事、雖被仰高辻三位、御講被止之間、一向此草可被止、兵部卿殿御違例之上者、相替可草進之云々、申入曰、老父病躰逐日窮屈、片時不通左右、秀長又咳氣、就彼是心中惘然、更不可叶之由申之了、

明日御經供養御布施取事、経重朝臣催之、於言長者可存知、愚身老父所勞難見放之由、載状申之了、廿九日 丁酉、今日清宣朝臣入来、御卜様十四日午刻分無子細、廿二日午刻御卜聊重様也、可依今明日御躰云々

今日旧院正忌也、兼日可有御八講之由有沙汰、伝奏藤中納言、(資康卿)奉行職事藏人次官知輔也、而南都僧綱称咳氣皆不参、寺門輩事武家申子細、仍無講衆之間、被止之、御經供養也、御導師良憲僧正、題名僧長聖法印、房淳僧都、良壽僧都、心兼僧都等也、堂童子言長、着座公卿藤中納言、新藤中納言、中御門宰相、左大弁宰相、御布施取基明朝臣、公仲朝臣、教冬朝臣、藤永行、橘知季、官方経重朝臣奉行云々、御布施、御導師三重一裹、自余一重一裹、有御加布施、衣一領云々、

是皆禁裡御沙汰也、内親王御方御分如每月御供養又被行之、御導師輪転年始又勤仕始之間、良憲僧正也、題名僧同前、御導師一重一裹、自余一裹云々、御願文高辻三位

草進、消書 行藤云々、有免者 宣下、言長先参入「内」、今日御時也、兩中納言 祇候、晚頭被始行御仏事云々、卅日 戊戌、晴、今日言長参内、七瀬御祓使勤仕之、於常御所有一献、至昨日御精進今日御魚味御沙汰云々、藤中納言・新藤中納言・冷泉三位(永季卿)等祇候云々、

二月小 一日 己亥、雨雪、三日 辛丑、雨降、今日以勾当内侍奉書被仰下曰、病躰次第赴減敷之由、被思食之處、無其儀云々、驚思食、為祈禱祭一座可有御沙汰、其足賀「茂」衣服料、今明可沙汰之、可被付祭料云々、面目之至、忝者也、委細申入御返事了、藤中納言「黄門」送状於柱下云、明日仁和寺宮・大学寺宮叙品事可有宣下、奉行定令申敷、位記料紙事先々有沙汰之様承及、若可被申者可執申大覚寺宮云々、返答云、叙品事奉行誰人哉、未相触、料紙事率爾難出来、本儀公方御沙汰也、近例皆叙人沙汰也、百五十疋被下行之由申之、晚頭此員數、自彼黄門許送之、則下知、申剋頭弁俊任朝臣送御教書於余并柱下、此宣下事也、柱下領状、予故障、位記料紙事相尋之間、委細申遣之了、仁和寺宮御料紙事、奉行職事申入本所之由返答、

四日 壬寅、今日叙品宣下延引、可為明日之由奉行触之、依折年祭廢務歟、仁和寺宮位記料紙事、申本所之處、今度非御意之間、不可有御沙汰之由、以御使被仰之間、付伝奏申入之由奉行示之、位記以下事愁用意之、旧草聊有相違事、仍新作也、予草之、

五日 癸卯、小雪、今日仁和寺宮、大学「覚」寺宮、兩竹園一品宣下也、大覚寺宮御事、去比武家奏聞之間、御室別雖非御所望、依後進被推叙云々、凡法親王一品例遞返也、於御室者嘉元、建武、例分明也、於他門跡者正中聖護院、雖有此宣下、後日且依御室御訴訟、且依叙人御辭退、被止位記云々、此外殆無先規哉、今度武家執奏不及是非、伝聞、一度者、依御室御所存、雖被仰事之子細、重奏聞之間、有勅許云々、上御藤中納言(資康)、少納言淳嗣朝臣、内記言長、少内記長遠、六位外記師興等也、仰詞、二品法親王法守并覚尊一品位記令作、長遠入兩位記於宮持参、則請印了、一度奏聞被返下、被召内記、言長参賦、賜兩位記退出、於大覚寺殿御分者藤中納言乞取之、明且進入本所、祿物事内々可申沙汰云々、

位記如例、位記狀式位記也、如常、

位記如例、位記狀式位記也、如常、

二品法守法親王

右可一品

中務盤石基固法林材高、褒揚之儀最深、崇飾之爵宜授、仍昇一品之榮階、式照三密之真門、可依前件、主者施行、寬尊同文章也、

仁和寺宮御料幣、遂以叙人無御沙汰之間、自公方可被付其足、先於今夜者無為可申沙汰之由、女房奉書并奉行狀到來之間、語諸細工調進之、

七日 乙巳、今日自御室守融僧正奉書被遣万里小路中納言曰、御叙品御位記料紙事、於御門跡者、無其例之間、不被沙汰遣之候、御位記持參事先規勿論、但當時御在所無可然御在所候、內々可被沙汰遺祿物代之由、被仰談大内記云々、黃門送其狀、近例勿論之上者、其分可存知之由申之、

九日 丁未、早且罷向万里小路亭、先(万里小路中納言)一品對面雜談、中納言又對面數剋談雜事、黃門議奏事被仰之間賀之、宣房(万里小路中納言)藤房兩御例雖存之、凡父子相並事希代朝獎也、近則洞院公賢公・実世卿父子相並之由(九条中納言)遊君有仰、今日議定始也、入夜被始、近衛前閔白、閔白・万里小路一位・万里小路中納言等也、

今日桓忠僧正(出雲)、焯泉云々、

今日藤中納言送狀於言長曰、大覺寺殿御位記祿代(三目足)、去夕俊尊僧正送給之、例日之間、今朝進之云々、

十一日 己酉、右中弁資衡(出雲)以使者(出雲)申云、故一位三十五日相当來廿三日、引上廿二日可修之、願文并諷誦可草給之、後至沙汰分云々、送目六(性可修名)、十八日 丙辰、右中丞又申送曰、先日願文早速為悅、自分諷誦一通又可草給云々、領狀了、

十九日 丁巳、晴、今日尺奠也、去夜以女房奉書別被仰下之間領狀、入夜先參内、陪膳勸仕、六位永行相從、其後參官司、良賢、大儒初參時分也、宗季數剋雜談、俄之經重朝臣參仕、小時上卿新藤中納言(仲光)參仕、余・經重朝臣・宗季・季宣・賴兼等着東廊座、召使不參、上卿廟拜之時、以申事由之分被進了、余聊有存知「旨」、不立廂拜、上卿并弁・宗季三人立之、出立之時、余進加答揖、上卿掃着廟門座、其後都堂儀也、經重朝臣忘靴不隨身用淺沓了、余着靴、次百度座也、余・宗季・季宣、賴兼、西・經重朝臣、東・三獻也、聰明此座進之、無冥座之時定例也、無三道堅義并冥座等、依神木遷坐金堂也、座主役直講良種勸之、寮史生久重也、旧冬許補之、今日事申沙汰之、重弘一事以上扶持、器具等自助豐遺跡、以目六渡取之由申之、礼

服等在胤脚遺跡預之、同渡之、凡可被置彼跡条、雖不叶宜、御影猶御坐之間、先可返遣之由仰之、乘月掃正親町了、

廿日 戊午、晴、長遠、自今日日下臈參候正親町殿、余參殿中、藤中納言參仕、有御雜談、賜一獻、有御香等、亥剋黃門退出、今夜大樹辺物念、侍所已下馳集、武州(尾和)身上敷之由周章、如風聞者、武州述懷可下向四国之由、有其聞、仍大樹被召之間、則罷向、今夜祇候云々、禁裏以外御仰天牀也、

廿一日 己未、今夜武家辺猶物念、禁中人々皆參集云々、言長參仕了、廿二日 庚申、世上事之子細未承、定諸人不審也、南都發向勢去夕被召云々、今日少々京着、

廿三日 辛酉、世上物念猶不休、南都發向勢、吉見・赤松・富樫・「佐々木」六角、此四人京着、玉堂・土岐刑部大輔没落江州云々、就之此兩人有所存敷之由披露、猶諸人辭々、

廿五日 癸亥、晴、宮内大輔資藤(三目)送狀曰、來廿八日四十九日諷誦可草給之、向後每事異他可申云々、書狀礼節恐惶謹言書之、遣返報領狀了、今日玉堂自江州入洛、三度召御教書遲到之間、憚時宜没落、而有召之条、無子細之間、所參也、則參大樹第對面云々、自南都直没落之間、越中守護職賜島山云々、楚忽沙汰歟、

今日參城南八講、饗膳以後參着之間、於天神堂前頂御經、其後進堂前、長者大卿・予・在貫朝臣・淳嗣朝臣等也、僧長聖法印・定聰僧都一座講問之、有行香布施沙汰之、一口別八十五疋、檀帟五帖也、長者百疋沙汰之、

廿六日 甲子、今日陪膳當番勸仕之、六位知季・長遠(東坊)役之、今夜別殿行幸也、為脂燭祇候、御劍役公仲朝臣、奉行俊任朝臣不獻御草鞋、為候御簾也、御草鞋藏人弁賴房獻之、脂燭、予・藏人次官知輔・藤永行・橘知季・菅長遠等也、賴房候御後二對(上)也、

青蓮院宮自今夜御參候、令修文殊八字法給、伴僧六口也、御參道場之時、脂燭予・光頭朝臣(衣冠)・永行・知季等也、出御々聽聞所、初夜時了、宮御參常御所、有一獻、

廿七日 乙丑、雨降、今日園韓神祭、出車永行獻之、新内侍參向、弁兼長也、廿八日 丙寅、晴、世上事猶有浮說等、夜々軍勢馳集事一兩夜、先靜謐、高秀稱有所存、雖被召御教書并大樹自筆狀等、不參云々、廿九日 丁卯、晴、大原野祭被付社家、依旧院(尾光)聖忌日歟、弁・内侍共不參向云々、

今夕高秀子息四郎兵衛高詮參洛、大樹對面云々、父再三雖被教訓、猶不隨云々、仍先所參洛也、如此雖令申、內々父子相計歟、宿所已賜藤中納言之間、打札之由、披露之處、高詮參洛之間、於于今者無為歟、土岐彼官宿所悉被点之、中間小家等猶以被点之、先代未聞沙汰也、大炊御門西洞院土岐宿所上野左馬助拜領之、昨日悉壞取云々、

三月小

三日 庚午、文殊八字法、今日可被結願之處、今七ヶ日可有延行之由被申之間、青蓮院宮猶御候、

四日 辛未、晴、今日記錄所始也、今年始被行之、上卿万里小路中納言、弁「勾当」經重朝臣・頼房（今日始事）・寄人師香・宗季・良賢・兼治・光夏・明宗・章忠等云々、

今日參殿中、師香參仕、年号勘者事、昨日頭弁俊任朝臣參、申進口宣、今日被下師香、念可成宣旨之由被仰之、予申次之、

七日 甲戌、後聞、今日關東管領上杉（重房）自害、不知其故、或有鬱憤、或「為」狂乱云々、

九日 丙子、內宮山口祭事有勸問、奉行職事氏房也、御意見如左、  
仰詞、（折紙也、）

內宮役夫工山口祭間事、外宮遷宮以前、不可及其沙汰之旨、支申之上、可為新儀歟、但被相待彼遷宮者、件造替同以可遲々条、弥神慮難測哉、然者山口祭先可有沙汰歟、彼是宜計申矣、

御申詞

內宮山口祭事、依外宮遷宮遲引、支申之条、可為何樣哉、凡造宮年紀、於上古者雖不定、撰式以後年紀無延縮歟、何依外宮事、可被改內宮式年哉、此事仁安度被召諸道勘文及仗儀歟、群奏之趣、雖不同、猶不可被改本年限之由、多申之歟、誠為重事無左右不及短慮之思量、被尋諸道被決仗儀之条、可然歟、此旨「上」宜在時議矣

內宮山口祭事御申詞一紙被進之候、可令得此意給之由候也、恐々謹言、

三月九日 秀長  
藏人弁殿

十一日 戊寅、雨降、年号勘者勘解由小路一位辭申、所勞云々、師香申其由於「上」、今度仗儀無御出仕、直付奉行可申之由、可仰之由有御返事、仍其分仰師香了、

十三日 庚辰、晴、中院大納言送狀日、就年号事可申談、明日可來云々、万里小路中納言招引之間、罷向、元号事數則談合、同一位同對面、自方々勘文所望書遣之了、十四日 辛巳、晴、入夜雨、新藤中納言為一位辭退替可撰進年号事由、俊任朝臣成口宣、進一上、可下知之由有仰、則下知師香了、十五日 壬午、改元延引可為明日云々、

今日洛中又騷動、大樹第馳集云々、但無殊事、十六日 癸未、雨降、改元定今日又延引、朝家重事如此延引、聊爾之至也、勘者事藤中納言、左大弁宰相兩人又被加之間、彼是七人也、去年可有改元沙汰之時、七人被宣下了、自一上又有仰、今日左大弁口宣到來、則下知師香了、

十七日 甲申、左大弁宰相送狀、年号事可談合可來云々、仍罷向、每事無案內、文書等先日世上物念之時分、預遣他所、召寄之条、目六等不取、為事煩、一事以上可相計云々、元來其才學不審、則如此令申、且故大納言勘進之時、一向申談家君、代々芳好也、愚存之分相計之、新字一、古字一、可為二歟、彼家代々大弁宰相初度如此、新字事、雖一字不撰之間、愚身此間相撰內談合、故大納言初度新字和保也、実光（今日始事）・資長兩卿又初度奉志保、模三代佳例、今度可勘進定保、新字之条、如何之由示之、尤可然之由被諾、今一任代々例、可為旧字、長祥資宣卿兩度、俊光卿兩度、時光卿一度、彼是五ヶ度彼家歟之、不論善惡、任代々所進可歟之由談之、是又可然云々、

勘草可書之由有命、仍予書之、書樣、大弁之時、勘申年号事一行端書之、右依旨勘申如件字有之、名字事、參議左大弁藤原朝臣資教、如此代々例歟之由示之、父祖所為圖分明也、無覺悟之躰、頗以珍事也、細々可來之由成芳約、近日武辺權勢、旁以施芳意了、

十九日 丙戌、晴、土岐大膳大夫入道善忠此間可被誅罰之由有沙汰、軍勢少々發向之處、無殊罪怠、今度一撰諸大名大略優免之間、就內外歟申、仍昨日被成優免下知云々、天下太平之兆歟、万人有喜色、

廿日 丁亥、今日准后密々御出黒谷、有御連哥、自青蓮院宮頻被申之間、太子堂花御巡覽之次、不慮渡御彼竹園、御大口躰、雖有御斟酌、再三被申間渡御、又有御連哥云々、

廿一日 戊子、明日改元必定云々、左大丞就年号可談可來云々、仍罷向勘文誑樣等為最商也、其後向藤黃門、年号事談合、

廿二日 己丑、晴又雨、今日改元定也、委細見別記、改康曆了、參內、  
廿四日 辛卯、為澁州退治所發向軍勢山名・赤松・富樫以下皆被召上之間、今日焔京云々、天下太平珍重々々、

廿五日 壬辰、晴、參殿中、除目事南都捧事書於長者、申子細、不可有御出仕云々、

神木金堂前御坐之時分也、式除日被行之条、且無例、旁有御出仕者可恨申云々、執柄有御出仕者、左府御參無子細、若無其儀内々御祇候分令治定者、一身御參更不可叶之由被申間、被停止之由、奉行頭中將親一朝臣申之、凡神木遷坐之時、被行式除目例、先規不詳之由兩局申之處、只可被行之由有沙汰、果南都申子細、近日儀、每時兼無沙汰、臨期違乱、諸人之煩也、

傳聞、式部大輔今日參年始御説、文選第一云々、

廿六日 癸巳、晴、今日可有雜訴云々、奉行俊任朝臣故障之間、就与奪知輔申沙汰之、前藤中納言參会、暫雜談、先日誦願文等無相違為悦由謝之、五旬之時、草事申淳嗣朝臣之處、資藤位署悉載之、皆以當職之分載之、不得其意、未復任者也、争可書載哉云々、誠有其理、或前卜載之存例歟之由返答之、今日雜訴、前藤中納言・万里小路中納言・中御門宰相等伝奏參仕云々、記錄所俄被仰下之間、一人其衆不參、

康曆元年

十月 一日

七日 庚午、晴、(二条良基)參准后、其後參内、自今日當番也、禁中冷然無祇候人、

八日 辛未、晴、(高倉)永行入來、及晚參内、當番之間祇候、

十一日 甲戌、晴、(家)家君御共參准后、建仁寺僧共濟々參仕、有和漢百、其後中御門相公面々同道、向万里小路一品亭、先日勝負和漢所課也、又和漢百有之、今夜祇候正親町殿、

十二日 乙亥、晴、早且參准后、(前)万里小路中納言・家君・經重朝臣等參仕、有和漢、一献、入夜退坊城、

十四日 丁丑、晴、今日准后并博陸御出竹中殿、可御共之由兼日有仰、仍參殿中、(家)兩閣・月輪前右衛門督・忠頼朝臣參御車、家君御車、余・宗春朝臣御共、先入御竹中殿、数献、有御連哥、光明院僧正祇候、(河)白河二位・中御門宰相・室町三位等參会、懸物杉原百帖、扇十五本被出之、入夜杖護壽聖院長老招引申之間、御出彼寺、又有御連哥百、兩座共余執筆、皆御発句也、亥刻還御、至殿中御共、其後家君御共

掃正親町殿、

十六日 己卯、晴、今日博陸和哥御会、申障不參、百首御短冊也、愚詠三首進入之、今小路大納言殿御頭也、講師成量云々、出題博陸、兼日被賦之、

十七日 庚辰、晴、自今日城南恒例講演也、申斜參寺門、長者大卿父子參着、以上三人也、僧惠詮律師・嚴蒙閣梨、及昏黑無擬饌、

廿二日 乙酉、晴、參殿中、南都寺務僧正(実遍)、(一)兩僧綱(二)參仕、寺訴条々此間御問答、先撰州寺社領并閑事八ヶ所已一昨日成武家下知、所殘廿余ヶ所下知明日中可被執遣之、其(マテ)可在京之由被仰、畏入之由進請文、贈一献、今度寺訴早々御伝達、隨而大樹嚴密下知、併依殿中御籌策、寺門定可開眉歟之由申之、武家向使雅樂入道・門真少外記等參仕、昨日悉可成下知之由申之、珍重々々、僧綱成悦喜之思、自管領義將朝臣許進状、武家事書以下統左、

南都事関并相殘撰州所領等悉可令施行之由申沙汰了、其子細、雅樂・門真定以參上言上仕候哉、日出候、於今者軍勢一段候、能々可被廻御籌策候、得隙候者以參上可言上候、可令申入給、恐惶謹言、

十月廿二日 月輪殿

義將(判)

(武家申候 康曆元年十一月)寺務僧綱物念下向、太不可然、撰州閑事今明悉可有遵行之上者、先兩三日可被召留之由、可申入関白家者、

廿五日 戊子、晴、禁裏御香御会、万里小路一位奉行云々、

廿八日 辛卯、晴、茶会、柱下・成秀兩頭也、於正親町殿搦一饒、皆禁裏御具足也、有其興、盃饌及昏黑掃宅、

今日高秀和哥会再興招引、家君入御、余遣懷紙了、題寒草冬月・祝言也、

十一月

一日 甲午、晴、今朝忌火御膳、長遠申沙汰之、陪膳教遠朝臣云々、

二日 乙未、晴、長遠退出、御贖物自昨日永行申沙汰云々、

三日 丙申、晴、今日万里小路一品月次会也、宗季父子罷向、宗季只為頭役接之、寄車之間、招入勸一盞同車了、家君・中御門相公等濟々也、和漢百、其後余逗留、聯句百有之、盃膳種々珍物等有之、

今日平野祭、上卿平中納言・弁左中弁經重朝臣等云々、奉行職事藏人次官(前)家房也、内侍不參、

四日 丁酉、晴、南都訴訟事、先日寺社領早速遵行、満寺感悦子細申之、被遣左衛門佐義將朝臣、進請文、其状云、

南都学侶事書下賜候、一見之處、穩和之旨趣、先聞候、神徳之至、皇化之運、雖掃天然候、同心忽捧金闕之書候之条妙乎、被和塩梅之鼎之故歟、陰陽之變理、風雲感通、旁以珍重候、就中建武之願書、甘棠之慶未忘候、今度之群議大樹之感異他候、将又当羊質之奉行、不及蜂起之沙汰候、偏無私之所致候哉之由喜存候、寺訴之余蘊、特加思慮、安神襟、散衆壽之様、忝可申沙汰之由存候、且可被含鈞命候哉、以此旨可令洩申入給、恐惶謹言、

十一月四日

義將(判)

月輪殿

十日 癸卯、晴、今日孟子御談義之由、万里小路中納言触之、仍參内、講師侍從中納言故障、俄延引、

十一日 甲辰、晴、藤黄門招引之間、家君・余・傍官・柱下等相伴向彼亭、有朝俵、其後向万里小路一品亭、父子对出一盞、

十二日 乙巳、晴、參内、於常御所有和漢五十、侍從中納言・万里小路中納言・新藤中納言・家君・別当・余・淳嗣朝臣・言長等祇候、入夜孟子御談義也、出御黒戸、經重朝臣・元範朝臣參仕、其外和漢御人数同前、講師侍從中納言也、見別記、

十五日 戊申、晴、今日吉田祭、権右少弁頼房・内侍(勾当)等參向、出車永行献之、

十六日 己酉、晴、梅宮祭、左少弁氏房・内侍勾当等參向、出車長遠献之、

十八日 辛亥、今日自備後飛脚到来、伊与交野為武蔵守入道致合戰、被誅之由注進、

十九日 壬子、晴、今日大原野祭、右少弁兼長・内侍不參、

廿日 癸丑、晴、家君入御、来月七日故宝篋院贈左府十三廻願文事、兩通以諏方神左衛門尉康朝申之、仍可草之由有仰、如然事為被仰談也、

今夜「日」禁裏孟子御談義、不參、後聞、新藤中納言講師云々、

廿二日 乙卯、晴、參殿中、今日雅樂入道參仕、南都事、可被向大軍、六箇国軍勢被仰守護人、如然書以兩使可有問答南都、一兩日中可下向之由申之、沙汰之次第嚴密、珍重々々、併自准后被仰驚之故也、余晚頭退出、

南都発向人数

駿河今川(泰範)

近江龜井(佐々木六角清西)

播磨赤松(龜則)

備前同、加賀富樫(富家)

撰津渡河(龜則)、

兩使

斎藤四郎右衛門基兼、安威新左衛門時有、

廿三日 丙辰、天晴、今日申剋大樹可參之由申之、可早參之由有召、仍參仕殿中、家君御參、入夜大樹參入、遲引不慮事云々、車軌俄打破之故云々、藤中納言・別当

參仕、大樹共上野細夜、浜名・彦部・千秋等也、教剋御雜談、大樹殊快然、家君及御驚舞了、殿中役送人親忠朝臣・余・宗春朝臣・季尹朝臣、諸大夫全繼朝臣・成量等也、參入、退出之時、面々皆降庭上、親忠朝臣・季尹朝臣持蠟燭行迎之、

廿四日 丁巳、晴、遊行上人此兩三日上落、今日為十念被請申之、仍御渡、先泉殿巡礼、余引導、其後御対面、有点心等、小時退出、

今日被引遣御牛御馬於大樹、殊畏入之由、種々被申、浜名御使也、

廿五日 戊午、晴、宝篋院十三回仏事自今日始行、於等持寺拈香、律家十寺供養云々、

廿六日 己未、晴、自正親町殿被仰曰、来晦日結縁灌頂願文念可給之由、奉行申、今日可被遣云々、即隨身草參入、々見參、則中書・諷誦・余書之、被副御書、被遣諏方神左衛門許了、

今日記錄所沙汰也、伝奏中御門宰相一人、寄人宗季父子・明宗・兼治・調保・章忠等云々、

長遠今日退出、自来月一日又可祇候之間、相博永行了、

廿七日 庚申、晴、今日禁裏御談義被催、而新藤中納言俄故障、延引了、

今日結縁灌頂誦經表白事、久我大納言誂之、遣之了、

今日於等持寺為宝篋院仏事轉經云々、

廿八日 辛酉、晴、来月八日如法經十種供養願文章成立、入見參、無子細之由有仰、中書如先日付諏方神左衛門被遣之、灌頂八大樹繼母、如法經八大樹実母、施方也、

入夜万里小路一品月次会、家君・言長・余罷向、新藤中納言・中御門宰相・頭左中弁以下濟々会合、有和漢百、盃膳用意、

今日於等持寺觀音懺法云々、為彼仏事也、

廿九日 壬戌、晴、伝聞、今日於等持寺法事讀云々、高座和清院長老(光空)一念党八人、笙右幕下・冷泉三位・教冬朝臣・英秋・藤秋・定秋・氏秋・筆葉兼時朝臣・季村、笛親一朝臣・景繼・景永・景秀、琵琶園前宰相、箏室町前宰



相中將、簾中四張、鞆鼓景繼、大鼓藤秋云々、  
卅日 癸亥、晴、今日於等持寺為宝篋院仏事結緣灌頂也、大阿闍梨菩提院僧正道快  
云々、

南都下向兩使上洛、条々内、大軍下向事、々書如此、自由条々無殊事、已又落居篇  
目之由、准后有仰、

十二月小

一日 甲子、晴、未明參内、召具長遠了、忌火御膳陪膳勤仕之、御裝束、御殿御格  
子皆下之、当間（開）一間上之、卷御簾、御屏風立廻西方、出御以前余与長遠昇台盤（火）  
置大床子前、余候西床子辺（円座）、有数剋出御大床子、被立御箸入御、其後如  
元撤之、次日御膳如例供之、内侍（弁内侍）被廻内外、非外人奉仕之、其後退出、  
自今日御贖物長遠申沙汰之、  
自今日於等持寺八講始行之、

二日 乙丑、晴、參殿中、自南都兩使上洛、寺門申詞有御物語、大軍事不念申之分  
也、珍重々々、晚頭成重宿所月輪以下合有一献、

今夜於等持寺有饑法講、笙右幕下（山部卿）・民部卿・冷泉三位（教冬朝臣）・國秋・英秋・  
房秋・藤秋・定秋・氏秋・筆築兼時朝臣・季村・季秀・笛師（三條朝臣）・親雅朝臣・景繼・  
景永・景房・景秀・比巴園前宰相・筆室町前宰相中將・簾中、鞆鼓景繼、大鼓國秋  
云々、

三日 丙寅、晴、今晚山名讚岐守為退治武藏守入道発向、先下向備後、与山名伊  
豫守相共可発向云々、交野被誅伐之故、念被差遣之歎、

四日 丁卯、今夜亥剋東寺内西院（大徳院）炎上、希代珍事也、草創以来五百余載也、任一  
時之灰燼、起万人之驚歎、仏法魔滅之時分歎、可悲々々、「失」火歎、大師御作不  
動明王并御影以下奉取出之云々、

五日 戊辰、晴、今日等持寺八講結願也、

六日 己巳、晴、今日雜訴沙汰延引、依東寺御影堂事、可被止歎之由、被尋先規於兼治  
云々、灌頂堂塔炎上之時、強被止雜訴之由不被仰出、但法勝寺炎上時者暫被止之、

其ハ惣寺也、是ハ別院也、可有差異歎之由申入之云々、雖然先於今日者被止之云々、  
今日於等持寺如法經十種供養也、於經者妙界寺僧衆書之、導師房淳法印、願文申家  
君、大方禪尼（大徳尼）、施主也、右幕下被着座、笙所作今日万秋樂始被吹之、隨身六人皆  
布衣、出居主人被出之時追前云々、所作公卿殿上人濟々焉、見左、地下衆人候簀子、  
隨身共候庭上、兼隨身等聊無骨之由申之、於衆人者役人也、准扨例不「可脱力」勝  
計之間、不「及」申所存、堂上堂下丁聞衆成市云々、

笙

大宮大納言（兼） 右大將（兼） 民部卿（兼） 大宮前宰相（兼） 四条前宰相（兼） 前右  
兵衛督（兼） 教繁（同） 冷泉三位（永季、同） 教冬朝臣（兼） 衣冠（兼） 惟秋（兼） 布衣（兼）  
國秋（同） 英秋（同） 房秋（同） 藤秋（同） 守秋（同） 定秋（同）  
氏秋（同）

鞆鼓

兼時朝臣（兼） 衣冠（兼） 兼邦（同） 季村（布衣） 季種（同） 季秀（同）  
笛

師（兼） 大炊御門中納言（兼） 室町前宰相（兼） 親雅朝臣（兼） 束帶（兼） 景繼（兼）  
景永（同） 景房（同） 景秀（同）  
比巴

今出河大納言（兼） 実直（兼） 直衣（兼） 園前宰相（兼） 衣冠（兼）  
筆

室町前宰相中將（兼） 簾中四張

鞆鼓

大鼓

盤涉調

宗明樂 採桑老

七日 庚午、晴、參准后、越中伊予守（兼）・土岐伊予入道（兼）・少弼入道（兼）以下參仕、御  
鳥以下為一見也、御對面余申次、鳥以下悉被召出之、其後予參内、准后御言付御書  
等有之、先參正親町殿、着衣冠也、

今夜有小除目、上卿平中納言、奉行職事頭左中弁經重朝臣賜小折紙、為内覽參殿中、  
執柄被遊小折紙、返給之、經重朝臣掃參之後、陣儀始、平納言着奥座、  
經重朝臣仰詞、賜小折紙、中納言移端座、召官人仰硯事、少外記季宣承上宣置硯、  
次召弁、經重朝臣着座、上卿有目、經重朝臣進上卿前、賜小折紙、復座、引寄硯摺  
墨、染筆置之、次取宿紙、緋見、自奥卷直置硯與身間、次取黃紙見之、同置之、  
次取出小折紙、緋置硯右方、取笏氣色上卿、次取黃紙書之、次取宿紙書之、離宿紙  
繼目又書之、以上三通書了、懷中小折紙、取副三通於笏、進上卿前、進之、上卿見  
之、目之後復座、即退出、次奏聞也、

參議 藤原俊任（兼）

侍從 源康忠

伊賀守 藤原頼定

筑前權守 平高景

左京亮 平定盛

左衛門尉 平信正 藤原廣國

右衛門尉 藤原「平」清明

左兵衛尉 藤原季氏

藏人頭

宮内卿藤原親雅

辭退

參議長宗

今日宝篋院贈左府十三回正忌也、今日於仁和寺等持院有仏事、陸座、(南禪寺)拈香、(天龍寺)經供養導師房淳僧都云々、願文左大弁三位草之、

八日 辛未、及晚參内、当番之間祇候、

九日 壬申、朝間天陰、哺終雪降深三四寸、家君御參内、付鳥於梅、入柑於盃、御酒海一御持參、人々未參、最前御參天氣快然、其後藤中納言・別当持參極以下、万里小路中納言同進之、御大飲也、当座和哥、勅題禁庭初雪、余獻懷紙了、詩一首贈

武家願文御草報酬、馬代阿通分六百疋沙汰之、

今日伯中将資方朝臣進馬於内裏、被下長遠了、

十二日 乙亥、雪降、四五寸連朝有其興、今日小女魚味著袴儀如形沙汰之、申入正親町殿之處、自武家雪消一獻進禁裏、仍依有召御參内御計會之由被仰、元來堅固内々儀也、仍如形沙汰之、

十三日 丙子、晴、參准后、右幕下隨身番長(下毛野)武音以下六人參仕、雪中一獻持參、有御賞翫、各被召御前、賜一盞、其後於執柄御方有御聯句一折、自禁裏被進勅書、此雪不預御音信不審之由被申之、此勅書之次、宸筆御講本尊古仏可為何様哉并奉行職事非五位職事之条、可為何様哉、被尋申之、御本尊事、每度新造無別儀、宸筆御講邂逅儀也、新造尤可然、且新造利益猶勝之故也、次五位職事奉行事、長治例嘉模之間、応安度有沙汰、被仰五位職事之由、被申之、晚頭退出、

伝聞、今日右幕下依招請、被出東福寺云々、

十六日 己卯、晴、參殿中、遊行上人參入、御連哥百有之、准后御発句、わきてけふ花ふる雪の嵐かな、一遍上人故事被思出之、脇句遊行上人、色ある雲の日こそさ

むけれ、紫雲被念籠、是又珍之由准后仰之、点心等御用意、入夜退出、  
十七日 庚辰、晴、

外宮遷宮御神事間事、

上古神宝奉獻日、御神事之外、無其斎、天喜以後当月自朔日有散斎、神宝発遣日致斎、正遷宮前日当日後日三ヶ日致斎也、所詮説々雖不同、神事有増無減、如此御沙汰可然哉、但先度内宮之時、旧院御記定申入所存歟、又正遷宮日可有御遙拝歟、

十八日 辛巳、晴、戊剋藏人左少弁氏房奉行、明且伊勢外宮遷宮神宝可被発遣、内文并結政請印少納言無人于領狀、可參仕、可為別忠云々、女房奉書同到来、俄計會、雖然於内文者可構參之由申入了、

十九日 壬午、晴、今日外宮遷宮神宝発遣也、辰剋又氏房奉書到来、結政同可參衙、内文領狀尤神妙由御沙汰云々、可構參之由申之、已剋參正親町殿、着束帶參内、先内文請印也、着陣服床子、可覽文之条、雖為本儀、近年不及覽之、今日如然、上卿平中納言着陣、以氏房奏事由、掃出仰之、次召外記、康隆參、仰官符事、康隆持參官符、(入宮、上御起座、於弓場代奏聞、氏房申次之、康隆持宮相從、被返下之後、上御掃着仗座、康隆進官符、内覽御免、但近年如此、次上卿召將監、陣官勤代、參進被仰案事、則立案於軒廊如常、内暨兼置印於案上、次余進案下揖立、上卿目予、々揖參賦、賜官符、掃案下、持宮、揖置官於案上、陣官勤内暨代、進案下、余撤官符、陣官捺印五所也、)如元卷之、入宮持宮揖參賦返進之、拔笏直經本路退出了、次上卿召外記賜官符、上御起座、余參御湯殿末、出御、今日參事種々歡感、

貞治度不參也、今度殊被凝歡信、仍別被仰了者、其後有一獻、昨日自御室新宮被進一獻云々、弁代盛繼參殿上口、(永行掛祿、)盛繼二拜退出、次神宝御覽也、宸儀出御、勾当局(女房達二人、)在御共、職事氏房、知輔・藤永行等候門左右、神宝御覽、行列先前掃二人持梓、次京職官人、次御辛櫃數十合也、悉不及御覽、大概分也、度々例見左、今日悉無御覽、每度如此之由、行事官申奉行職事、次余參結政、於待賢門下車、上卿已參着、(余入北門着結政、門外不設之、大概相計其程、)上卿兼着座、(余少參着座、)外記「外記」康隆着座、(座中立案、)次召使「行詞」、持送官符「入宮」、置案上、則捺印、(捺印、)畢入宮、(入宮、)次康隆起座、余起、上御起座、予經本路退出、伝聞、今日神宝等御覽以後直發遣云々、六位史家連・官掌豊兼・史生六人供奉參行、

伊勢太神宮遷宮神宝発遣北陣 觀覽儀事、

康永二年十二月十九日内宮神宝奉遣也、

行列次第

先前掃四人、次京職官人、次黒漆辛櫃八合、次朱漆辛櫃八合、次御弓櫃十合、次御太刀櫃十三合、次御琴櫃一合、次金物辛櫃卅余合、次雜荷等、次史以下、

貞和元年十二月廿日外宮遷宮神宝奉遣也、

行列次第

先左右京職兵士各二人、次前掃四人、次神服辛櫃九合、次御大刀辛櫃三合、次胡録櫃三合、次弓櫃一合、次鞍櫃一合、次金物辛櫃一合、次梓櫃一合、次菅笠算翳櫃一合、次紫翳櫃一合、次桶櫃一合、次紫蓋櫃一合、次御馬櫃一合、次史以下、

貞治二年十二月廿五日內宮神宝奉遣也、行事并六位藏人等祇候之、行列奉行史生職親也、并代実直朝臣遲參之間、先被渡神宝等、其後并代參入、渡門前云々、主上御出長橋上也、西面北唐門前被渡之、賀茂祭以下北陣儀此定也、

行列同康永度

今日麿務、先例之上者勿論也、禁中御神事迄遷宮日可為前齋之由有沙汰云々、今日万里小路中納言母儀十三廻也、願文章遣之、以中書可用之由令申之間、書高櫃幣了、導師良壽僧都也、

廿日 癸未、晴、參殿中、「於執柄御方有一獻、」藏人方管領事、可仰經重朝臣、御教書予書遣之、參仕之時雖可被仰、且可存知之由也、親雅朝臣昨日又軛中将云々、廿六日 己丑、晴、參殿中、家君御參、明日可被進一獻於禁裏、如然事為被申談也、伊勢外宮遷宮今日之由被定日時、神宝於路地人夫違乱御逗留、御延引、

廿七日 庚寅、晴、參殿中、家君御參、被進一獻於禁裏、時珍尽山海白鳥以下濟々也、及長櫃十合了、入夜准后御參内、神木在箱中、即上、天氣快然、御大飲、乱舞及天明、今夜貢馬所進、神木在洛凡雖不可被乘、以內々儀被乘之、一、五也、唐后、博識野分也、兩正被進殿中、

被預遣所々、

二正 伊勢内外宮別當御座

二正 殿中

二正 左右馬寮九条前殿

一正 九条前殿

一正 御廄

一正 藤中納言

一正 別當

来月旧院七回御忌、可被行宸筆御八講云々、神木掃座事、武家早速可申沙汰之由申之、仍被下僧名御点、伝奏中御門宰相、奉行職事知輔云々、「折紙也」宸筆御八講御点、

證義

実遍僧正

慈俊僧正

講師

房深法印

長聖法印

深惠法印

円守法印

房淳法印

房雄僧都

良寿僧都

円俊僧都

聽衆

長懷僧都

定聡僧都

房替僧都

經弁僧都

範伊僧都

心兼僧都

義蜜僧都

心尊僧都

実惠

隆肇

隆兼

乘經

叡俊

廿九日 壬辰、追儼也、上卿平中納言、奉行職事知輔、有僧事、上卿以下同前、大僧正事、(山) 桓忠僧正為法性寺座主、又上首也、(山) 尊玄僧正、雖為下臈、護持

勞異他之上、公請勞積之間、被超越了、其例勿論歟、大僧都事遷返、是又殊賞歟、去年五壇法、青蓮院宮令讓其賞給云々、

大僧正尊玄 權僧正道尊 大僧都道尊

權大僧都 範伊 守快 円清

權少僧都 長覚 成重 英憲 定助 実昭 一

權律師 貞守 長尋 有仲 貞超 淨秀 信勝

法印 超濟 頼俊 慶兼

法橋 定源 乘慶

康曆元年十二月廿九日

節折為申沙汰、長遠參内、四方拜同可申沙汰云々、

今日外宮遷宮之由被定日時、神宝猶御逗留路次云々、又延引無疑、准后先日御物語曰、逗留事今日禁裏御衰日也、仍可被用他日之由、思食之由、先夜御參内之時被申之、此事於愚存者不可有御憚、其故者、外宮遷宮十余年延引、為前代未聞事、適神宝等調敵周備之處、被憚御衰日、今年又延引之条、就眞顯驚存者也、不憚御身（之）之慎、被先尊神之礼者、更不可有其咎、還可有冥感、古賢所為有如此事、中院（之）禪閣正和興福寺供養已欲出車之處、或者投入生頭於車中、見告之、争可被行哉、可被延引之由申之蓋有之、禪閣云、大義不可憚少、興福寺供養大儀、依此事延引、天下之口遊不可通、只取寄清祓可供養之由被申、于今為美談者也、此躰事先賢多存之、旁以不可被憚之由被申、天氣種々御感之由有御物語、

康曆二年（庚申、）

四月大

一日 辛酉、晴、平座、奉行職事藏人次官知輔、伝聞、上納納言不參、堀河宰相中將（具言）、參行事云々、權右少弁頼房、少納言平棟信朝臣等云々、一献云々、  
四日 甲子、依召參准后、今日 博多野 上洛、畑子振連哥一座申沙汰之、遊行上人・一色入道・京極大膳大夫等參仕、有大飲、及昏黑退出、

八日 戊辰、今日武家文談式日之間、可罷向之處、浜名備中守送状曰、今日猿樂御指合候、明日申剋可參云々、可存知之由返答、  
今日禁裏灌仏被行之、当代初也、公卿平中納言行知卿、次將公仲・隆信・宗春等朝臣、奉行藏人次官家房、六位知季等云々、

九日 己巳、晴、參殿中、万葉御談義今日被始之、四条聖以下濟々祇候、余可罷向武家之間早出、其後罷向上策、以浜名申事由、其儀又在別記、今夜當番之間、參候禁裏、御子左大納言「參候、」昨日棧敷式以下語之、於御湯殿未有数献、令对合能々可沙汰之由有仰、以外沈醉了、

十日 庚午、浜名備中守為御使來、此間連々參会、尤本意悦存、向後便宜事可申扶持「云々、」次又一ヶ条密々奉事有之、勅一献遣引物、出種々一献及引物、  
十二日 壬申、朝晴夕雨、向浜名許、一ヶ条談合料也、出種々一献及引物、其後向土岐大膳大夫入道第和哥会也、題迎春祝言、去正月上洛時「始」可張行之由存之、出題事申御子左大納言、而大樹会始以前斟酌、仍于今延引、雖然此出題徒閑之条、無念、雖至夏季、猶所用也、二条宰相・余・右馬頭・飛鳥井少將、侍所

宮内少輔詮道、口方・浜名（詮政、）門真・宗一具重之、「土岐」善忠・「予州禪門」信尊・法印公俊・良珠房・東入道・山岸入道・經賢僧都・一一經慶、由阿等別重之、自法赫下臆講之了、被講以前先三献、其間賦卅首短冊、共以披講、後又兩三献、及夜陰綿宅、大飲爛醉、忘帰路、比與了、

十三日 癸酉、今日綾小路川原猿樂勸進、密々見物、  
十八日 戊寅、殿中鳥合也、早旦 羽林 同道參仕、土岐入道・一色入道・伊予入道以下參仕、先鳥合、次万葉御談義、其後和漢百、終日数献及乱舞、「今日」將軍家御文談之間、和漢未終時分、參上御第了、有御文談、見別記、

廿一日 庚辰、浜名自將軍家御使也、聊有密事仰、  
廿一日 辛巳、參准后、明後日大樹參入必定、就其御計会云々、  
廿三日 癸未、晴、今日大樹入御准后御第、早旦着布衣參仕、家君御參、富長朝臣參仕、未剋渡御、御共「絹狩衣」按察中納言・「布衣御劍役」教冬朝臣・「同」教遠朝臣・大樹

一車也、近習浜名備中守・彦部伊豆守・真下新左衛門尉等也、

先於北亭御鳥合、日關之間、逸物等十四五番被合之、光陰大能鳴、今日管領義將朝臣并一色入道等參仕、少弼入道祇候、御鳥合之間、有五献、破子、其外点心等也、藤中納言・二条宰相等參仕、其後有百首和哥、御短冊披講、出題御子左大納言兼書進之、被賦之、今日取集有披講、講師雅氏朝臣、講頌御子左大納言「為遠」・藤中納言「仲光殿」、按察中納言「資康殿」、兵部卿「長綱卿也」、二条宰相「為重殿」等也、講了又数献、及音曲、大樹「筮」、殿下「御琵琶」、室町前宰相中將「季頭」等、園前宰相「基光」、琵琶、親朝臣朝臣「筮」、雅氏朝臣「筮」、教遠朝臣「筮」、季尹朝臣「筮」、盤涉調也、御酒宴及半更、御子左大納言以下及乱舞了、大樹御快然躰也、御馬一疋、御牛一頭被引進之、

御短冊

准后（七首、） 殿下（六首、） 大樹（七首、此内二首） 四辻前大納言（五首、）  
御子左大納言（七首、） 按察中納言（四首、） 藤中納言（四首、） 兵部卿殿（三首、） 二条宰相（五首、） 園前宰相（三首、） 前右衛門督（三首、） 飛鳥井三位（四首、） 親朝臣（二首、） 義將朝臣（五首、）  
余（二首、） 為尹朝臣（五首、） 雅氏朝臣（三首、） 業俊（一首、） 高秀（四首、） 貞秀（二首、） 詮政（二首、） 周清（二首、） 善忠（五首、） 元盛（三首、） 信慶（三首、） 經賢僧都（二首、） 宗久（二首、）

今夜祭除目也、上卿平中納言、奉行職事兼日氏房也、依流布赤斑瘡、当日知輔奉行、警固同被行之、

任人

神祇大副卜部兼繁 中務丞菅為守 侍從源定清 藤師成 内藏助藤寛氏 雅樂助源国秀 主稅權助中原師内 兵部權大輔平親繼 大藏權大輔平教忠 掃部允藤範真 彈正少弼祝部成詮 修理權大夫高階成重 山城介藤邦信 若狹守安倍親藤 但馬守藤仲氏 備後守三善景衡 權守丹波頼定 讚岐權守藤在勝 右近權少將源資広 右衛門佐平知兼 右兵衛佐藤宣俊 右馬允安部遠広

典侍平知子 康曆一

廿五日、乙酉、天晴、賀茂祭也、今日西雖有三、不戴申之時、用下支干例云々、長遠沙汰進之、女使平中納言沙汰立之、右馬亮任近例家君被沙汰立之、七百疋御訪人、中條判官一也、若黨廿人直垂鎌金銀薄、未曾有也、道志六位一人、時弘

武家判官之時、必六位一人可供奉云々、內藏助藤原寬氏載宣命、言長草進之、但例宣命紅白二通渡之、山城介致成入道任例沙汰立之、右幕下御見物棧敷一色入道・土岐伊予入道兩人奉行之、一條鳥丸南類結構之、御出棧敷行粧、諸人見物之、伝聞、万里小路中納言・按察中納言・藤中納言以下向棧敷云々、

廿六日 丙戌、晴、罷向中御門相公第、超清法印以下參會、孫子隆清去夜於理性院僧正房得度之由語之、

廿七日 丁亥、明日臨時祭也、使御訪三千疋被苑下之、舞人一五行事各千疋、自餘六百疋云々、

廿八日、戊子、天晴、今日石清水臨時祭也、當御代未行之、今度始也、仍使可為卿位、而神木在洛中、氏公卿不叶之間、異姓人被催之、皆以故障、「依御事關」被仰兵部卿殿、為支公務不顧老躰被申領狀、伝奏万里小路一位也、職事藏人左少弁氏房為分配、而依流布「赤」斑瘡、知輔申沙汰也、鎌倉右幕下（衣冠）為見物自未剋御參內、万里小路中納言・按察中納言（皆衣冠）連軒、劍役教冬朝臣、沓役教遠朝臣也、准后又御參內（御直衣）剋限別被念之由再三有催、然而人々皆兼存夜陰由、出立遲引、家君令着御束帶給、成重朝臣父子來奉仕之、

門、乘松明衛府侍一人左衛門尉大江成房本行衣、白、帶、上八少也、二國色衣四人、白、帶、常服也、右、御出、小雜色六人、切替、笠持一人、余（衣冠）言長、長遠（束帶）、奉屋從、兵部卿殿徘徊弓場邊、余堂上申入參仕之由、右幕下御祇候常御所、御大飲時分也、只今不可有出御云々、仍申此由之間、先御堂上、丑剋先有御禊、御倚子知輔與長遠昇之、兼居額間、母屋御簾垂之、廂御簾卷之、敷毬代置鎮子、其上立御倚子、庭座事永行與奪之間、長遠申沙汰之、仍予加扶持、御笏申出賜內暨、出御、御草鞋家房奉之、御簾經重朝臣候之、宮主進大麻、返賜着座、次使（家君）經御幣案南着座給、（向坤）兩御揖如常、引寄裾不脱沓給、次舞人三人一、五引立御馬、向、御禊了宮主退出、次引出御馬、次撤御贖物、次使揖起座、經四座南、跪案下、（坤向）指笏更起、取幣三本立給、次御拜、次使置幣、（如元）拔笏經本路御退出仙花門代外、次入御、次宣命事也、上御中院中納言（通氏）、平中納言（行知）、堀河宰相中將

着殿上、中院中納言召六位、長遠參進奉仰、內記出無名門、言長雖參仕舞人躰也、從役之条、延文度愚身雖勤之、適又長遠少內記之間、宣命事與奪、仍長遠持參宣命（入宮）上御取之、召職事知輔奏聞、被返下之後、以六位召使、長遠出無名門、奉向家君氣色、其後降居、家君入無名門、昇小板敷、跪長押上給、宣命取副笏退下、次上御召六位、長遠六子賜空黃退、此後又於常御所御酒宴、右幕下聊被揖御事及數剋、寅終庭座儀始、神木在洛中之間、簾中出御也、右幕下於東二間御見物、使舞人以下自滝口戸別坐庭中座、公卿二納言一相公著壁下座、一獻盃頭并經重朝臣、

瓶子長遠、陪從前親忠朝臣、瓶子所衆、二獻使前中院中納言、瓶子家房、陪從前孟公仲朝臣、瓶子所衆中院中納言着垣下座、三獻使前平中納言、瓶子知輔、陪從前隆信朝臣、瓶子所衆、雖為代始、無軀孟儀、舞以下被止之、北陣同被止之、依神木在洛也、重盃使前

重朝臣、瓶子長遠也、挿頭台長遠置之、螺盃銅蓋長遠置之、家房坐挿花台下賦花、三卿以下次第賦之、陪從分家房一度遣之、其後自下騰退出、天明事訖、

使 兵部卿殿

季尹朝臣「月輪中將」夏、青侍一人、小雜色三人、中四人合侍。

淳嗣朝臣「菅少納言」夏、小雜色三人。

棟信朝臣「平少納言」夏、小雜色二人。

言長「大內記、中務大輔昨日被宣下」夏、小雜色三人。

宣俊「左兵衛佐」夏、小雜色四人、白、帶、一人（白木）。

資藤「左兵衛權佐」夏、小雜色三人。

知兼「右衛門佐、今日出仕始之間、刷行粧歟」夏、小雜色一人。

藤永行「藏人大舍人」夏、小雜色二人。

普為守「中務藏人」夏、小雜色一人。

藤永俊「式部藏人」夏、小雜色一人。

仲名朝臣 成重朝臣 仲興朝臣 宗茂 仲雅 尹氏

人長 桑久勝 所作陪從 近衛召人

廿九日 己丑、晴、已剋御出門、御參八幡、四方輿、力者六人、御直衣也、余、言長、成詞（布衣）、成秀（淨衣）、延勝、延任（直垂）等御共、雜色共、未剋着勅使坊、破子沙汰之、其後面々着裝束、家君着手與御社參、自余步行登山、行事舞永行同參社、給、御參門辺設座之後、着舞殿座給、再拜了、誦宣命給、次神主申祝、畢退出、次使又再拜、畢御退出中門外、此間舞人、引廻御馬、只一通也、本儀八

禁中被止之、仍於社頭可略之由行事藏人申之、先例不審、敷神樂座、行時、次使者  
〔東座〕一行事舞人同着、〔東座〕二所作陪從二人着西方、其次樂人等着之、  
人長着南座、內藏寮居饌勸盃一獻、次使以下立箸、次御神樂、次使以下拔箸取笏、  
自下臆悉起座退出門外、舞人等、舞人不上御馬如何、一向行事藏人申沙汰之、省略  
儀如何、掃勸使房、又改裝束等欲掃參之處、社務常清法印招請申數獻用意之、種々  
變応也、先是勸使儲饗以下至僮僕語之、用意之、面々沙汰之了、人數事自社家母申  
之間、被注遣之、

諸大夫二人 侍五人 雜色以下僮僕五十余人  
馬七疋〔如此被注遣之〕

戊剋余掃蓬屋、後聞、掃立、禁中儀已及深更、藏人頭不參、祿以下奉行職事知輔勸  
之云々、有勸盃云々、  
卅日 庚寅、罷向大樹第、文談見別記、○別記今、

五月 辛卯、

七日 丁酉、隨心院僧都御房今日御入壇、○別記今、諷經導師表白事被仰、草進畢、  
八日 御文談式日之間、參室町御第、哥御會御計會之間、明日可參之由被仰、

仍退出、今夜參內、祇候當番、面々番無沙汰之處、祇候神妙之由、以弁內侍被仰下、  
被仰為蚊帳可沙汰之由、被出御銚子了、為衛參會、父大納言違例以外、聊得減云  
々、

九日 己亥、未剋參大樹御第、今日今官祭禮見物、仍明日可來之由、被仰出之間、  
退出、

十日 庚子、參大樹御第、今日文談見別記、○別記今、  
十一日 辛丑、今日土岐禪門哥會也、仍罷向、二条宰相・飛鳥井少將・侍所位高、

東入道・山岸入道・杉谷法印〔公俊〕・良珠房・經賢僧都・松田丹後守〔貞秀〕  
・浜備中守〔詮政〕・門真左衛門尉〔周清〕・內藏權頭光方・基運・三須肥前  
守宗篤・景阿等也、伊与入道出懷帟、依違例云々、基運為講師、入夜掃參、

十三日 癸卯、雨降、今日右幕下被出建仁寺、新命義堂和尚招引、種々引物云々、  
教冬・教遠等朝臣為劍沓役人同車供奉云々、掃路大樹參內、不思食寄俄御仰天、按  
察進一獻云々、御酒宴及曉天云々

十八日 戊申、雨降、武家御文談式日、仍參仕之處、密々御出北山二品「局」許、  
明日可參之由被仰、次參一条殿、御雜談有一獻、次向万里小路一品第、對面、參正  
親町殿、

十九日 己酉、晴、參准后、一色入道以下參仕、御連哥也、今日武家文談、見別記、  
○別記今、

廿日 庚戌、今日准后御出右幕下第、〔室町〕余・季尹朝臣兩人參御車、內々可有  
御出之由申之、御牛飼四人、番頭六人也、万里小路中納言・按察中納言・藤中納言  
・別當・冷泉三位・親朝臣等祇候御前、余・富長朝臣・季尹朝臣・教冬朝臣・教  
遠朝臣・永行等勤役送、皆狩衣也、但親雅朝臣・永行束帶也、數獻之間、孟子等御  
雜談、左衛門佐義將朝臣參御前、新造御會所可被見申之由被申、先大樹入御、其後  
被申面々參仕、又有數獻、於泉邊被聞食、准后被進重宝、一、其後、亥剋還御御  
共、退蓬屋、亥終也、

廿一日 辛亥、右幕下被出天龍寺、新命大清和尚被招引云々、教冬・教遠朝臣兩人  
供奉、太刀沓兩役也、〔皆衣冠〕掃路又被參內、准后御參會、及曉天御酒宴也、

廿四日 甲亥、今夜禪師号宣下也、円淨和尚被贈仏通禪師、此僧不經五山十刹、雖  
然就武家奏聞有御沙汰、上卿平中納言、職事知輔、大內記中書兼帶言長參陣了、

廿六日 丙辰、今日雜訴沙汰云々、伝奏万里小路中納言・藤中納言・中御門宰相等  
參仕、記錄所宗季・兼治等云々、

廿七日 丁巳、今日大樹被出土岐入道許、此間世間巷説之處、無子細御意也、珍重  
々々、

廿八日 戊午、參殿中、右幕下內外出仕裝束以下一卷被注遣之、余書之、今日予為  
御使持參大樹、文談之次、入見參、御言付委細申之、掃路參正親町殿、掃參殿中、  
申入御返事、及晚退出、

廿九日、今日殿中御鳥合也、管領參仕、賜一獻、  
六月 庚申、

二日 辛酉、晴、今日大樹參內、可有御參會之由、被申准后、仍先御出正親町殿、  
余御共申入一獻、其後御參內、言長・々遠御共、大樹及數剋被參、於土御門高倉御  
下車、万里小路中納言以下參會、余參御下車所、准后有御參哉之由有御尋、御早參  
之由申之、御劍役教冬朝臣、御沓役教遠朝臣、參仕人侍從中納言・万里小路中納言  
・按察中納言・藤中納言・別當・冷泉三位・公仲朝臣・言長・資國・重光・永行・

長遠・余等也、被參常御所、羽蟻中將給今朝被新作、〔准后〕被遣大樹、々々有一入  
獻・興・懷中持參、於御前侍從中納言誦之、公私大笑也、予被召御前、以別當杓、

傾大器、眉目之至也、數獻中央有御案、民部卿・圓「前」宰相等參仕、地下伶人少  
々祇候、准后御沈醉、仍御早出、直入御常住院殿、彼僧正御房武家護持僧事、此間

親町殿、

依寺門沙汰事、無御勤仕、自准后被申之間無子細、且近日五壇法中壇事被申之、旁以珍重、為被賀申也、御連哥一折有献盃、及曉更還御也、余一身御共了、後聞、大樹及天明被祇候云々、

五日 甲子、為御使向赤松兵部少輔許、准后御書等遣之、其後參九条殿、大殿・前殿下有御對面、小時御雜談、掃宅後、自准后有召、明後日祇園會見物棧敷可有御出之由、大樹申之、可御共之由有仰、揭焉之儀計會之間、申故障、退出、

六日、乙丑、雨降、今日東寺西院事始也、頭左中弁經重朝臣、六位史秀職等參向云々、大樹被見物了、

七日 丙寅、陰晴不同、祇園會也、神輿不造替之間、雖無神事、洛中風流如例、殊今年結構云々、大樹御棧敷、管領左衛門佐構之、十間云々、准后内々被申之間、被召万里小路中納言車、御出彼棧敷、宗春朝臣一身御共、按察中納言・別當・親朝臣・教冬・教遠朝臣・永行等參候云々、

八日 丁卯、參武家、文談也、見別記、○別記中、見上文。  
九日 戊辰、今日於殿中密々花御會也、余奉行之、人數廿四人、左右番花勝負五明也、

- 一「勝」大御所へしろかね、ついで、殿御方へるり、二兵部卿へこと、ついで、三 白川二位へこと、あかへ、四「持」中御門宰相へこと、
- 五「勝」園前宰相へちやはん、ついで、六 前右衛門督へちうしやく、ついで、七 室町三位へこと、六「勝」經弁僧都へちやはん、けいしやく、ついで、八 忠頼朝臣へこと、ついで、九「勝」親春朝臣へこと、きんし、五 宗春朝臣へこと、せいひ、十「勝」季尹朝臣へくわんゆう、ついで、十 為尹朝臣へこと、ついで、四「持」全繼朝臣へちやはん、けいしやく、九 聖光房へこと、ついで、十一成量へこと、るり、八「勝」師綱へちやはん、せいしつ、十一「勝」義尚へちやはん、せいしつ、十二「勝」道舜へこと、ついで、十二「勝」助廉へちうしやく、おなし、七「勝」成豊へこと、せいひ、十二 兼熙朝臣へこと、あはん、三「勝」秀長へちやはんへ「せ」けいしやく、

今日自武家被引進御馬(黒)詮政為御使、管領又進馬一匹(鴛毛)食籠一、堆紅盆一、去七日棧敷御出之間、面目其御引出物也、  
十四日 癸酉、朝雨昼晴、今日祇園會也、大樹御棧敷、土岐大膳大夫入道善忠用意之、十間五間、二間、三間、四間、五間、六間、七間、八間、九間、十間又二間也、准后可有御出之由内々被申之、仍万里小路中納言為御共參仕、依密々儀、被召彼車、准后御大目、御大目・中納言(直垂)・余・季尹朝臣(皆直垂)御共一車了、親朝臣・教冬朝臣・教遠朝臣・永行等祇候、皆直垂、大樹御

直垂也、管領義將朝臣・少弼入道・「土岐」伊与入道等候御前、七献之時、被召善忠於御前、賜一献、富長朝臣單物鉢内々為見物在別棧敷、被召出乱舞、眉目至也、酉剋還御、今夜大樹可有御參内、相構可有御參之由被申、准后御領狀、後聞、大樹入夜御參内、一献万里小路中納言進之、准后有御參、按察中納言・別當、此間輕服暇中也、然而依別勅祇候庭上云々、於雨階月下終夜御會、及天明准后・幕下御退出云々、

十六日、關東小山宇都宮合戰事注進到来云々、以外大儀也、其狀云、  
宇都宮小山合戰今月十六日候、宇都宮討死候、舍弟負手候、芳賀六郎同七同八討死候、其外岡本、ふねう父子、君嶋息、市庭、なへ以下宗者八十余人被討候、小山方二八大内入道父子親類三十余人討死候、佐嶋惣領・志筑嫡子・案内二郎以下二百余人討死之由承候、委細追可申入候、  
五月廿四日 「渋谷入道」沙弥道喜

小山方討死  
大内入道父子 幸嶋惣領 志筑嫡子  
案内三郎以下親類二百余人  
宇都宮方討死  
波賀六 同七郎 同八郎  
岡本 船生父子 市庭 那波以下宗者八十余人

小山下野守義政与宇都宮下野前司基綱確執事、固雖加制止不応上裁、義政依寄来基綱在所而防戰討死了、義政狼藉罪科難遁之間、所令進発也、早不日相催一族等馳參、可抽忠功之状、如件、  
康曆二年六月一日 御判  
東八ヶ国同前

十七日 丙子、晴、參殿中、花御會也、面々又持參一瓶「色々花瓶有其興、」以園分左右、衆議判也、扇勝負也、  
今日一座先日負方面々申沙汰之、  
花御勝負  
一 殿御方(勝) 成重  
二 親春朝臣 兼熙朝臣(勝)  
三 為尹朝臣(勝) 師綱





建武三年四月六日崩御、

八月奏遺詔、 廢朝五ヶ日、 三閔警固事被仰之、

雜訴七ヶ日被止之、

花園院（當今御從祖々々、）

貞和四年十一月十一日於萩原殿崩御、以折中儀、准御外祖父、可有錫紵遺詔奏之由治定、三十ヶ日止雜訴、

十二月廿日奏遺詔、自今日廢朝五ヶ日止音奏警蹕、今夜着錫紵給、即令除御、

後醍醐院

曆應二年八月十六日於吉野山中崩御、

於遠所崩御、崇徳・後鳥羽・土御門・順徳院也、

廿四日文殿庭中也、武家沙汰七ヶ日止之、

五月一日公家雜訴七ヶ日自今日停止之、

八日廢朝五ヶ日、固閑警固事宜下、無遺詔奏、

今日主上着御錫紵、是為御外祖父儀云々、

九日平座停止、依廢朝也、

廿五日 甲申、晴、參殿中、今日密々又可御出之由、去夜以浜名備中守大樹被申之、可御共之由被仰、仍俄參仕、

先御參 日吉神輿飯殿、明日可有奉遣之由有沙汰、造畢珍重、左衛門佐義將朝臣參詣時分也、其外奉行人十廿人祇候、義將朝臣以下降地蹲居、成光祇候、社之神輿事以下申之、玉難得之處、自越中出來之由、義將朝臣申之、未時還御、

大樹又被參、神輿拜見之後、又被參北野、其後小時可有入御之由申之、仍自東面入御泉亭、侍從中納言・万里小路中納言（置）・良賢（布衣）・予祇候、有御文談、先日孟子利事有沙汰、委見別記、（別記）及深更還御也、

廿九日 戊子、晴又雨、早且日吉神輿七社造替調之間、奉遣社頭、先規諸院宮各一基被造進云々、近日不事行、為武家以諸國段錢以下造畢、一基分二千貫許云々、奉遣之儀、先規大略院御治世例也、禁裏御沙汰遷返、院御沙汰時、庁官以下相副奉遣也、今度重々有沙汰、六位史・史生・官掌等可供奉之由治定、被下御訪、（四人、二千五百貫）武家沙汰也、史生職村・「氏広」・官掌豊兼等各束帶供奉云々、於神輿者悉撤鈔納辛櫃、御輿蓋別二以蓆奉裹之、昇之云々、後日氏広談云、七所神輿悉先奉入大宮、今夜大「十」禪師二社許奉入本社、八王子翌日奉入本社、一日奉飾大宮、「三社」渡社家、社司等列拜、「一」師子舞、次田樂等、十禪師二社二日八王子二社奉飾奉渡、此儀皆同前云々、大宮十禪師鳳盤、自余五社皆葱花也、先例官務兼治注進之、統左、

日吉神輿造替時奉送儀先々沙汰次第例事

文永六年十一月廿九日 日吉上七社神輿造畢之後、今日奉入本社、院司主典代俊秀、庁官重直（代主）・尚經等參向云々、於辛崎宮仕法師許參迎、奉請取之、

正和四年四月廿五日 日吉聖真子新造神輿一基今日自行事所（一基）先奉入祇園社、行事官主典代前安房守安倍資村、庁官以下道々輩等參向之、奉飭神輿奉渡日吉社司、宮司等同禰宜申祝了之後、神輿出御南門、四條西行、京極北行、經河原、自西坂本御登山云々、

同廿八日 同新造神輿六基今日被調進之、路次一条西行、東洞院南行、三條東行、經河原、至大津浜北行、着御唐崎、其後戶津北行、奉入大宮拜殿、先八王子・三宮阿社神輿奉飭渡社司、次大宮・客人二基神宝以下於同拜殿（渡脱力）社司、次二宮・十禪師二基神宝以下於二宮拜殿渡社司云々、

先々奉獻之時、於唐崎社司奉請取之處、今度依有怖畏之子細、於社頭奉渡之云々、

參向行事、

主典代前安房守安倍資村、庁官紀久秀、同久國、同光久以下也云々、

此外造替奉送年々雖有所見、其間儀不分明之間、不及注載云々

右注進如件、

康曆二年六月廿二日 左大史小槻兼治

康曆二年 秋

七月大

一日 己丑、天晴、

三日 辛卯、晴、神輿「宝」奉送「御」共史以下上洛、無為奉渡社家云々、

七日 乙未、晴、參准后、土岐入道（善忠）・大膳大夫（高秀）以下被召、有御連哥百、及數獻、懸物杉原百帖被出之、一句一帖云々、及深更退出、

今夜乞巧奠被止之、依法皇御事也、

八日 丙申、

九日 丁酉、晴、參武家、有文談、見別記、（別記）

十七日 乙巳、晴、良賢同車參殿中、明日大樹參入、可有御文談、其間事被仰談、

今夜大樹密々參内、數獻及暁天退出云々、其下供奉、被召南庭賜酒、被下御扇、結句刀一腰賜之云々、按察刀也、被召賜之、希代眉目也、言長祇候之、

十八日 丙午、武家文談式日之間參仕、令入伊勢入道風爐給、數剋待申之間、罷

向兼熙朝臣亭、種々饗応、其後帰参申入、只今可参准后、今日可延引之由被仰之間、退出、直参准后、淳嗣朝臣・良賢以下祇候、有和漢、侍從中納言・万里小路中納言等参仕、一献有之、乘燭之間大樹入御、和漢被閣之、先出泉辺三献也、其後御文談、見別記、〇別記、其後管絃御大飲、御乘船以下終夜御会也、及鷄鳴退出、

十九日 丁未、光明院法皇遣詔奏也、使隆信朝臣、上卿平中納言、職事頭左中弁經重朝臣、弁兼行、外記宗季・清原仲季、史兼治、固閑・警固諸衛長遠、今一人被用代了、

廿日 戊申、向建仁寺、謁蘭洲和尚、(清住庵)、又謁大龍庵主、有種々点心以下、又向洞春庵(金西堂)、被出茶酒、今日長老、被出百願函題云々、侍者以下作之、余援筆、呈金西堂、帰宅、

廿四日 壬子、参准后、園前宰相祇候、有双六勝負一献、

今日開閑解陣也、上卿平中納言、職事經重朝臣、兩局不参、諸衛長遠一人云々、

廿六日 甲寅、所司代大園(朝光)、入来、勸茶酒遣引物、被取一献了、

廿七日 乙卯、向中御門相公亭、有一献、白川二品参会、兩人同車、参准后殿中、於博陸御方有二「一」献、彼二品沙汰也、准后万葉御談義、高秀等参集、

廿八日 丙辰、式日参武家、御出若王寺「子敷」之間、退出、謁按察中納言、此子細申之、可披露云々、帰路参武家壇所、常住院僧正御房御座之故也、及夕帰宅、

## 八月

一日 己未、晴、朔祝之儀如例、孟子一部加新寫進大樹、御返練貫一重杉原十帖也、濱名備中守詮政奉行之、(其外方々或贈或酬)

二日 庚申、今夜禁裏有困基御会、侍從中納言・万里小路中納言・按察中納言・兵部卿殿・持明院三位以下参仕云々、種々懸物被出之、長遠為日下臈参内、

三日 辛酉、大樹参内、准后御参会、終夜御会云々、

今日於安国寺月輪父子・朝山・依田・平井(通称)以下会合、有和漢聯句百、其後月輪・朝山等来此亭、終夜和漢又百張行之、

六日 甲子、今日雜訴、万里小路一位・前藤中納言・藤中納言等出仕云々、記録所兼治一人祇候云々、

七日 乙丑、自今日禁裏当番之間、晚頭参内、(三合)前内府、侍從中納言伴参、於常御所有一献、此時分大樹参内、先以教冬朝臣被伺機嫌、前内府祇候、有一献之由告之、

仍大樹自門前被退出、此子細按察祇候之間、教冬朝臣申之、則申入、御仰天、前内府即退出、侍從中納言以勅書向武家、乗物以下已退「散」、再三令申之間、侍從中

納言同車被参内、於御湯殿上有御酒宴、主上筮御所作事、為被申也、分明可有御沙汰之由、不被仰出之間、大樹聊無本意之躰也、尤無勿躰、万里小路中納言参仕、余役送勤之、殿上人教冬朝臣・教遠朝臣之外無人、大樹退出之時、面々扈從、余付万里小路中納言車罷向、即時帰参、祇候御前、

八日 丙寅、朝晴夕雨、文談式日之間、向武家、万里小路中納言・按察中納言・別当等参会、大樹去夜参内、聊風氣窮屈之間、今日無説書、終日祇候、有一盞、晚頭退出参内、按察中納言参会、於御前有一献、

十五日 癸酉、晴、及夜中雨降、申斜自正親町殿御書到来、今夜内々禁裏和哥御会也、女房奉書以勅筆被遊題被下之、准后可被進御懷紙之由被申云々、

応永五年（戊寅）

正月大

一日 己酉、天晴、微雨、早且参社、次参 執柄、  
入夜執柄渡御此亭、備供御、盃酌教献、令着御装束給、御隨身三人、  
六人御共、殿上人基輔・資敦、前駈二人、則秀・資茂等也、自此亭御步行、入自西  
面四足門御参内、此後下官着束帶、（正和）参内、（入）于時御薬也、医師五人、典薬頭季業  
朝臣・中務権大輔定長朝臣・右馬権頭明成朝臣・有成・郷成等也、後取言長朝臣、  
奉行職事藏人權右少弁定頭也、  
節会儀載別記、（〇）

二日 庚戌、晴、殿上淵醉也、出御、兼宣朝臣・満一朝臣・兼邦朝臣・経良朝臣・  
資家・定頭・菅長頼・菅長政・橋知興・橋以広等也、  
御薬後取奉行定頭也、  
四日 壬子、雨降、今日室町殿御出青蓮院宮、被刷御行粧、万里小路入道内府御  
共也、  
五日 癸丑、晴、早且参賀室町殿、勾勘・両息・元長等召具之、就教興朝臣  
申入、三条新大納言以下濟々参会、  
次参大樹御方、懸御目、  
叙位儀見別記、（〇）

今日昼間参内、元日雖出仕、不得機嫌、無御对面、今日構見参、出御湯殿末、有一  
献、其後向万里小路内府禅門第并日野大納言第、祝着、有引出物、如例、  
七日 乙卯、昼間日和、夜陰月明、白馬節会、奉行藏人左中弁資家、叙位四品之  
間、当日事定頭申沙汰之、也、入夜執柄渡御此第、被著御装束御参内、御共殿  
上人、資高・基輔、前駈一人則秀也、内弁三条新大納言（実豊）着陣、  
九  
条中納言（氏房）、中院宰相中将（光頭）等着陣、奉行職事藏人權右少弁定頭仰  
内弁、次三条大納言移端、次第如例、外記依頼季与奪、師邦申沙汰、外弁公卿德大  
寺大納言（公俊）、九条中納言・新藤中納言（資藤）、西園寺中納言（実永）、  
吉田宰相（家房）、中院宰相中将等也、少納言範輔朝臣、二省丞藏人中務丞長政、  
藏人将監知興輔代、了叙人、式方、德大寺大納言、  
叙位宣命使西園寺中  
納言、節会宣命使中院宰相中将、其儀散々失礼云々、坊家奏実清朝臣、左馬頭代基  
輔、右馬頭代資敦、御宣命長頼草進、御膳等許候之間、於所役者申奉行、可勤代之  
由被仰秀職（高橋）、天明事訖云々、

次將、  
左 宗量朝臣 隆直朝臣 基輔 資高  
右 実清朝臣 経良朝臣 資敦  
紀三位俊長被任侍從、今日被宣下云々、希代抽賞也、近年神社輩一向任拾遺、為官  
無念歟、  
八日 丙辰、向三条入道内府第、賀新巫相昇進并内弁無為勤仕等、父子对面、内  
弁我不勤仕、故内府入道十六日内弁勤仕之外、近代不勤之處、再興喜悅、先日参  
大間、受御口伝、如形勤仕、為悦之由被示之、  
自今日後七日法金剛乘院僧正（光海）、勤仕之、御撫物藏人知興奉渡之、彼僧正宿  
所中御門前伯亭也、太元法理性院僧正於長講堂修之、同奉渡之、  
十日 戊午、節分也、御方遵行幸、経豊申沙汰之、御劍役宗豊朝臣、脂燭長頼・知  
興云々、典侍局也、  
今日大間為御使月輪中将被進白鳥於室町殿、若狹立石莊所濟之間、殊更被進之、御  
悦喜賜小袖於月輪云々、  
十一日 己未、今日室町殿評定始也、  
十二日 庚申、今朝以状招引之間、向飛鳥井新宰相亭、十六日可奏慶、節会作法以  
下商量（近來キ）進退分相語了、有勸盃、  
十三日 辛酉、晴、今日伏見法皇有御事、去年以来御惱云々、上皇御事例、両局  
注進、大概取要書拔之、

「兼治」被尋下同例  
花山院 寛弘五年二月八日有御事、  
後鳥羽院 延応元年二月廿二日一一  
土御門院 寛喜三年十月十一日一一、無遺詔、  
順徳院 仁治三年九月十二日於佐渡国一一、  
後深草院 嘉元二年七月十六日一一、（廿六日遺詔奏キ）  
八月廿七日尺笺、被止宴穩座、  
後伏見院 建武三年四月六日一一、八日奏遺詔、  
花園院 貞和四年十一月十一日於萩原殿一一、十二月廿日有遺詔奏、  
同五年正月一日節会国栖一一、立案被止之、十六日同前、  
後醍醐院 曆応二年八月十六日於吉野山中一一、九月八日廢朝并固閑警固事宜  
下、廢朝五ヶ日、

後醍醐院 曆応二年八月十六日於吉野山中一一、九月八日廢朝并固閑警固事宜  
下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、

下、廢朝五ヶ日、



如此之由被仰、仍為後寫之、奉行右中弁經豐也、

積奠廟倉在所顛倒、可被用何所哉事、大學寮注進、加一見返上之、被奉懸聖影之廟堂事候歟、引勘之處、治承元年八月十日積奠被移行官庁、本家及地之儀、以正庁為廟堂、元曆元年八月一日尺奠以官司正庁為廟堂、奉懸先聖於高御座東間、自余影像次第重懸之、同二年二月三日尺奠以朝所被用廟堂、是去年被用正庁之條、猶有議之故歟、建久二年八月一日尺奠、以朝所為廟堂、是正庁被立高御座之間、如此被移之、文永八年二月三日尺奠也、朝所并後房三ヶ所、去年十二月顛倒之間、後房棟殘三ヶ間、仰修理職加小修理、被用廟堂、今度為藏人左衛門權佐棟望奉行被尋下云、積奠廟堂被用朝所之處、顛倒之間、可為何樣哉云々、有家宿禰請文云、後房顛倒殘加少修理可被用歟、於朝所者期日以前難出來歟、後房猶難被用者、被用正庁之條、非無先規哉者、今間所見如斯候、或正庁、或後房、朝所以下被移用之條分明之上者、正庁東西間被准用之條、如何事候哉、宜在時宜候歟、兼治謹言、

二月八日 兼治狀、

積奠廟堂在所顛倒事、謹奉了、引勘之處、非官正庁者、朝所并後房候、共以無其形之上者、尚可被用正庁内候歟、見 治承元年八月十日丁丑積奠以官正庁為廟堂、修理職塞北戸三間、南庇拵互切懸開三戸、四、五、六、木工寮構聖師九哲帳代并浜床机等云々、元曆依被立高御座被用東二ヶ間候、今被 在所顛倒之上、無高御座候歟、相殘間被用廟堂之條、不可背治承例候哉、仍言上如件、

二月七日 大外記清原賴季請文、

十八日 丙申、朝間雪降、午後天晴、今日春日祭也、上卿今出河大納言（公行）右少弁豐光、使資教、内侍（紀内侍）、出車嗣忠朝臣獻之、奉行職事權右少弁宗頭、

十九日 丁酉、晴、參大閣、興福寺供養事御雜談、今日尺奠也、上丁延引、法皇御事卅ヶ日中宴座尤可有其懼、近日時宜強又不被懼之、雖然自然延引儀如此、執柄申御沙汰也、奉行職事右中弁經豐、上卿吉田宰相（相）納言雖分配故障之間申沙汰也、少納言言長朝臣、弁重房、有廟拜之、今度廟堂被用正庁高御座西間二ヶ間、廟拜西上云々、座主役師夏、宴座題者言長朝臣、文人言長朝臣・長遠朝臣・為守朝臣・「序者キ」菅原在直、題札記第八、草木掃其澤、講師在直也、

廿二日 庚子、晴、參大閣、興福寺供養事被仰之、大納言殿御出仕取帳趣了、其後

向久我亟相亭、閑談被出一獻、余孟被飲之、來月具召除目執筆可勤仕、其間事無庭訓之間、不審事可申執柄、一向相論云々、

廿三日 辛丑、晴、今日園轉神祭也、奉行藏人右中弁經豐、上卿藤中納言（資衡）雖為分配、所勞相語舍弟新藤中納言（資藤）、參向之、右少弁豐光、出車親信朝臣獻之、出車遲引、祭了上卿以下退出、後參向、空掃參云々、

廿五日 癸卯、今日雖可參北野、夜前不知食羚羊之間、雖無懼、有存旨不參、大原野祭也、上中延引、上卿權大納言（公仲）、權右少弁宗頭、内侍出車教遠朝臣也、廿九日 丁未、今日室町殿渡御聖護院、大閣御參會、

三月小

一日 戊申、  
二日 己酉、今日伏見殿法皇五旬御仏事御願文事、内々以女房奉書被仰下之間草進之、一品經供養也、御經人數被注下、

- 一品經御人數、  
 「御本尊被調進」 青蓮院 萩原殿 勸修寺宮 相応院宮 常盤井宮 入道内府  
 大宮前大納言 大炊御門前大納言 今出川大納言 葉室前中納言 四条宰相  
 經有朝臣 兼邦朝臣 經良朝臣 真覺 範定朝臣 隆朝朝臣 行俊朝臣  
 光中朝臣 毘沙門堂法印 智音院法印 具隆 信俊 入江殿  
 岡殿 女房

三日 庚戌、晴、御燈、頭弁兼宣朝臣奉行陪膳勤仕、役送定頭・藏人長政（長政）祇候、

四日 辛亥、晴、參大閣、御再任事去晦日於聖護院被申、無子細、除目三ヶ夜御不參例被尋申、被注之被進、

六日 癸丑、晴、万里小路内府禪門招引之間向之、自室町殿被申一条殿事有之、雖可參申、機嫌難測、可申入云々、其詞云、御當職事、去々年大講堂申御沙汰、興福寺供養任近例為當職為佳例之由被申之間、可有御沙汰、御再任事何樣可申沙汰之由被申云々、予參申一条殿、御返事、委細蒙仰、畏存者也、進退任時宜之由被申之、則罷向、伝御返事之趣了、

九日 丙辰、天晴、午剋參大閣、今日御再任開白宣下也、詔書草持參、無子細之由有仰、障子上以下御室札計申了、今夜上卿坊城大納言、奉行職事藏人右中弁經豐兼日催之、大内記長賴成草參陣、御再任之時兵仗詔無之先例也、只被宣下許也、仰詞、以從一位藤原朝臣可為關白、任貞治二年例詔書令作ヨ、牛車・兵仗・藤氏長者如旧者、此仰詞自本所被注之賜職事、三ヶ度、月輪殿御代嘉禎不思樣、後福光園院



十二日 丙戌、晴、早且長方朝臣來曰、夜前於中山宿所面々會合、吉祥院異他子細雜談之間、結城越後入道當國守護別存敬神、可申沙汰之由申之云々、指圖先可一見、今日伴予可來之由、從越州令申云々、希代事也、併神慮（之所至キ）也、非懇（凡心）所及、指圖等沙汰之、勸一獻、午剋相伴罷向越州許、今日伺申可申沙汰之由申之、大工北野可然之由申之、兎角も一任之上者、早速入眼之様なと申之、不可有等閑之由申之、其後罷向北小路重相第、申此子細、悦喜之由被申之、

十三日 丁亥、晴、長方朝臣送狀云、吉祥院事、昨日已伺申了、今日可進大工、柱以下勅注賜可下知之由、越州申由告給之、且同道參吉祥院、猶如指圖可注遣之由申之間、午剋伴兩息參彼寺院、久長朝臣・長方朝臣等、被評定之、及申剋大工不見之間、申置下司執行等退出、

今夜於禁裏有御短冊、（廿首）女房達被奉行一獻云々、日野大納言・權大納言（公仲）・為右朝臣以下祇候云々、

十七日 辛卯、室町殿此間御座（御座）、今日還御御第也、

廿六日 庚子、日野大納言招引罷向、朝恩事一所有御計（之由キ）候也、被仰、隨分申沙汰之由申之、昨日參社、神恩顯然也、

廿八日 壬寅、晴、今日熟田領内尾州星崎鄉被下給旨、祝着々々、經豐奉行也、日野大納言申沙汰也、

廿九日 癸卯、晴、今夜別殿行幸、為御方違也、頭弁奉行、而小舍人入參、内々行幸、典侍局御劍役、今日參室町殿、星崎鄉事畏申、付中山禪門申入了、

八月大  
一日 甲辰、

今日神幸、去月天下穢三年一請造替不叶、仍延引了、

四日 丁未、晴、尺笈也、在別記、（見三）、（〇別記）  
今日管領（色山名）出仕、御前評定始云々、騎替十人召具、輿簾上之、先々不然、今日上意如此云々、京極治部少輔入道、問注所波多野振津掃部頭、飯尾加賀入道、同肥前入道等出仕云々、圖為老、仍波多野發言云々、

五日 戊申、晴、室町殿今日御出万里小路入道内府第、病席之間、乍平臥懸御目云々、日野大納言參之、彼所勞危急、不可過今明之由、士仏法印令申之間、驚思食御出云々、

六日 己酉、今日申剋、入道從一位内大臣（實朝）、自去春病惱、得少減之處、自去月七日癰疽腫物、遂以焔泉、朝之宿老、可惜可哀、室町殿每事奉行、御悲歎無極云々、

七日 庚戌、今日中院宰相中將（光頭）入來、放生會參向、作法等為相尋也、

八日 辛亥、明後日青蓮院一品親王御逆修御願文今日草進之、安貞二年御室御逆修、故大藏卿殿御草進、御位署年号下、金剛弟子入道二品一親王敬白云々、仍今度如然草進之、是一品御事也、

十一日 甲寅、晴、早且新少納言入來曰、夜前謁結城越州、吉祥院造營木屋材木次第可渡之、請取能々可守護之由、可下知寺家、公卿可仰舍之由申之、今日召下司（前）、木屋守護事下知之、

長頼參内、長遠朝臣依召參内、有和哥御短冊廿首、為右朝臣祇候云々、依万里小路内府禪門事、不及披講、被取重云々、

十三日 丙辰、伝聞、今日伏見入道親王御方、今移萩原殿給、伏見殿ハ被渡申室町殿云々、彼御移徙御經營二万疋被進之、

十四日 丁巳、朝晴夕雨、放生會宣命内々付勾頭内侍局、内藏助丹波季賢也、奉行送之、上卿日野大納言參向云々、

十五日 戊午、雨降、放生會也、上卿日野大納言（資教）、參議中院宰相中將（光頭）、弁豊光、次將教興朝臣、右馬頭兼教朝臣、内藏助季賢、

今晚室町殿内々御參八幡云々、

今夜明月御賞翫、禁裏和哥御會也、只被下勅題七首、無人之間、不可及披講、可被取重之由、女房奉書到來、詠進了、三条右府・為右朝臣・長遠朝臣・実清朝臣・永俊・長頼等也、

十六日 己未、晴、今夜駒牽也、奉行定頭、上卿中院大納言、中院宰相中將、次將兼邦朝臣、弁定頭、少納言不參、御馬只一疋也、以一疋自上卿取伝令拜云々、後被進内侍所云々、去年被進神宮了、

今夜伊勢一社奉幣也、去四月内宮正殿盜人參昇事、為被謝申也、宣命長頼草進、内覽執柄、無子細之由有仰、内覽御免同被仰之、上卿中院大納言、職事頭中將滿一朝臣、大内記長頼參陣了、御拜有之、如例幣也、御卜形有御藥事、病事書載、不存故実、不載之、御幣被進内外宮了、但其分被載事有例之間略之、



武家人管領山名右衛門・今河右衛門佐入道・細川右京大夫・山名右衛門佐入道・結城越後入道等參候、新御所同御參会所也、

今日管領初度御前沙汰云々、

吉祥院勸進可書進之由有仰、唐折草紙進之、依御計也、結城越州、其分之間調進云々、

廿四日 丁卯、今日吉祥院造營御判被出之、

廿五日 戊辰、晴、來廿八日天地災變御祭文、今日付奉行中山禪門了、

今日於御前、御法案御連哥有之、元喜入道以下祇候云々、

今日當季御八講、於神前被行之、房淳僧正以下參勤了、

廿七日 庚午、晴、今日聖護院門主被進一獻、御參青蓮院、被申御大飲云々、本座田案兒被召御前歌了、入夜兩門主還御後、有田案如例、

廿八日 辛未、晴、未明還御也、

自今夜於室町殿、聖護院令修仁王經法給、脂燭教遠・言長・隆直・教興・隆躬・為右・長遠・為守・長方等朝臣・隆世等參勤云々、初夜每度於御壇所有心、今夜有之云々、今夜被行天地災變御祭文、有世卿勤仕之、御祭文予草進之、今度奉行中山大納言入道也、

廿九日 壬申、晴、室町殿渡御妙本寺、管領・中山禪門・結城等御共云々、西御所同日出御媒介云々、仍引出物黄金以下濟云々、

卅日 癸酉、城南八講、在別記、○別記云々理性院僧正入來、教令院門跡領被付中院候、申入也、

九月

一日 甲戌、晴、

三日 丙子、晴、今日北野神興還幸也、今年三年一請神興奇麗云々、

北野臨時祭、上御藤中納言、奉行職事頭中將滿一朝臣、宣命長頼草進之參仕、於殿上上御下使云々、使在勝也、有御禊、陪膳頭中將為、役送經豐、藏人長頼・知興・師仲等祇候、有御燒、御禊奉行以下同前、

今日東大寺転書會藏人權右少弁宗頭參向、先年予參向、条々相尋之間、愚記写遣了、昨日參向云々、

八日 辛辰、今日室町殿御出岩藏、

向広橋宿所、頭弁対面、一位禪門昨日參春日社、只今還向、長途窮屈之間、不及対面云々、南都奉行事賀之了、

九日 壬巳、今明自一条前博陸良辰御賞翫詩哥題被下之、可參仕之由被仰、四韻三

首如形案出持元、御人數中納言中將殿・余・藤三位・言長朝臣・長遠朝臣・基輔・長頼・惟教朝臣・泰臣・則秀、

宣俊朝臣雖祇候、兩道共以不獻懷紙、無念也、

今日平座上御藤中納言資衡、少納言範輔朝臣、弁定頭行行十四日 丁亥、晴、早且參室町殿、每年所進之菊持參、構見參進入之、坊城大納言參、今又勘解由小路一品禪門同參之、

廿日 癸辰、明後日東方清流御祭文事、中山大納言入道奉書到來、今日草進之、廿四日 丁申、万里小路内府禪門五句仏事也、右少弁重房雖為猶子、今日今日仏事為施主執行之、願文諷誦草進之、導師房淳僧正也、人々修諷誦、仍遣諷誦、法花經一部漸寫遺書裏、壽量品一卷染老筆進之、蠟燭一疋直遣導師了、

今日罷向丁間、大炊御門前大納言・葉室前黃門・甘露寺前黃門・吉田相公・三条坊門羽林以下濟々丁間、

今日被出日蝕御撫物、被遣大學寺宮、被仰全基法印、藏人永基參入出之、

十月大

一日 癸卯、晴、今日々蝕也、御折事先日被申大學寺宮、被仰付全基法印云々、不正現、可謂劬驗歟、

平座任度々例延引、可為明日由被蝕之、

二日 甲申、晴、平座今日也、上卿九条中納言氏房、少納言不參、弁右中弁經史不參、六位外記師世參陣云々、

九日 辛亥、晴、長方朝臣來示云、吉祥院造營木作始日時事、奉行頭中將、上卿被仰日野大納言云々、

十日 壬子、晝晴夕雨、吉祥院事始日時定宣下事為申談向頭中將許、則申御教書付陰陽頭在方朝臣、十四日宣下吉日之由申之、

十四日 丙辰、晴、今日吉祥院木作始日時定也、上卿日野大納言、奉行職事頭中將滿一朝臣、弁右中弁經豐、史秀職等參陣、陰陽頭在方朝臣勸申、不參之間儲勘文、秀職進之云々、委細見別記、○別記云々

十六日 戊午、晴、小雨降、今日吉祥院造營事始也、早且着狩衣參向寺院、委細見別記、○別記云々今朝大内入道下向鎮西、合戰以外之間為退治云々、

十七日 己未、晴、吉祥院八講開白也、

廿一日 癸亥、晴、早且參室町殿、渡御南御所時分、構見參、向中山亭、參詣暇事申之、今日可伺申之由返答、

廿三日 乙丑、晴、今日青蓮院宮於中山禪門亭御參會、其次予參詣暇事伺申、無子

細之由申送、為悅、

廿五日 丁卯、晴早且出門、參詣神宮、

室町殿自今日御湯治、御座結城許、中山禪門・飛鳥井禪門・長方朝臣祗候、京極入道祗候云々、

廿九日 辛未、雨降、今日先參外宮、々廻、予着淨衣了、其後參內宮、於御裳濯河浴水、參詣神人一人引導、巨五十鈴河橋、參風宮、所々巡礼、

十一月大

一日 癸酉、天晴、

梅宮祭延引次干支云々、忌火御陪膳隆直朝臣、兼長頼催備了、藏人知興就日下臈申沙汰、御贖物同前、

後聞、御曆奏、奉行頭弁兼宣朝臣、上卿新藤中納言云々、

三日 乙亥、半晴半雨、酉剋掃宅、

四日 丙子、今日氏神々事、自朔日構齋屋重引注連、

後聞、今日鎌倉左兵衛督殿(氏滿)・他界、年齡四十五云々、

十日 壬午、晴、依召參執柄、維摩會勅使弁訪被仰、講師、自室町殿嚴蜜被仰勘解由小路一位入道、御問答云々、御布施事渡領等被懸之、其間事条々有沙汰、夜陰退出、

十二日 甲申、晴今日春日祭也、上卿日野大納言「資教」・弁定頭、使伯少將資高、外記業盛六位內侍(新內侍)・出車実清朝臣獻之、

今日平野祭、上卿中院大納言(通宣)・弁資家朝臣、外記重貞、史秀職、內侍不參、臨時祭使楊梅中將兼邦朝臣、奉行職事頭弁兼宣朝臣、御祿陪膳兼宣朝臣、役送経豊也、藏人長政祗候、

十三日 乙酉、晴、今日關東早馬到來、兵衛督殿去四日他界云々、雜訴七ヶ日被停止也、

今日梅宮祭引、上卿不參、弁経豊、権大外記重貞、內侍不參也、

十五日 丁亥、今日異國進物數十兩進室町殿云々、

十六日 戊子、晴、大原野祭也、上卿藤中納言(資衡)・弁豊光、內侍出車資教獻之、外記師世云々、

今日万里小路故内府禪門百ヶ日也、經供養誦誦重房詔之、後室分同之草遣之、導師心兼法印云々、

十七日 己丑、晴五節也、頭中將滿一朝臣奉行也、但近年不被行之、園韓神祭上卿不參、弁経豊、外記師野參向、內侍出車師仲獻之、新內侍雖參向、事了各退散、

仍空帰參云々、不相待內侍、希代事歟、

十八日 庚寅、鎮魂祭也、上卿不參、弁豊光、內侍(新内)・出車資高獻之、

十九日 辛卯、晴、新嘗祭、雖非卜合、奉行頭中將伝別仰之旨之間、參向、見別記、○別記上卿日野大納言(資教)・弁資家朝臣、外記師世、史孝職、上下了兼教朝臣、內侍(新)・參向、出車教興朝臣云々、

廿日 壬辰、晴、豐明節會為平座、上卿新藤中納言(資藤)・弁経豊兼日野中將外記、史秀職、少納言不參云々、

今夜吉祥院立柱日時定也、委見別記、○別記

解齋御陪膳長遠朝臣參勤、出御、藏人長政也、

廿一日 癸巳、晴、今日於北小路前大納言亭室町殿若君・姫君等有御祝儀、

若君大御一、御大、御日、御五、御右御着袴、御魚味、字治大御名、三、御魚味、御着袴、

御服等一向前大納言奉行、則又奉裝之、御腰室町殿皆令結給云々、陪膳一一役送教興朝臣・清長・定光(皆束帶)

廿二日 甲午、晝晴夕雨、自今夜於有世卿宿所被行天曹地府御祭、七ヶ夜也、御告文章進之、又於室町殿自今夜聖護院被修金剛童子法、助修十六口云々、脂燭教遠朝臣・為右朝臣・隆直朝臣・隆躬朝臣・言長朝臣・長遠朝臣・為守朝臣・隆世等參勤

一、阿闍利被構有心御時之間、被勤之云々、御祈奉行中山大納言入道也、今日延曆寺霜月會也、弁定頭參向、

廿四日 丙申、晴、今日北山祭礼也、見別記、○別記吉田祭也、上卿西園寺中納言(実永)・弁豊光、內侍出車為棟、史秀職、外記師世云々、

廿五日 丁酉、晴、參執柄、御拝賀事昨日被申合室町殿、元三可獻、明春興福寺供養大儀之間、於御拝賀者被省略、自陣外御沙汰可然之由、被計申云々、

廿七日 己亥、晴、向北小路前重相亭、此間出仕御免之事賀之、

廿八日 庚子、晴、今日吉祥院立柱也、未明參彼寺、委細在別記、○別記

十二月

二日 甲申、今日室町殿自御湯殿還御也、中山以下祗候人皆退出、御座御寺、来七日御仏事云々、

七日 己酉、城南仏名也、伴勾勘・兩息等參行、

八日 庚戌、晴、自今日室町殿御參籠北野之間、晚頭參宿明尊法眼坊、

九日 辛亥、晴、向中山休所、又向東洞院重相休所、各有一獻、

西僧坊北新造御所此間被立之、山後生今日諸大名皆持參御大刀了、悉被進当社了、十一日 癸丑、小雨降、今日青蓮院殿御參室町殿御休所、御振舞云々、聖護院同御參會也、各二千疋御沙汰云々、御大飲也、

月次祭、神今食、上卿三条大納言(実豊)、弁豊光、外記師世、史秀職、内侍(紀)、出車雅秀献之、奉行定頭也、

今夜有小除目并僧事、上卿三条大納言、弁定頭、外記師世參陣、永行御任參議、兩代相統、希代抽賞也、年齡未闌、朝獎早速敷、幸運之至也、

十三日 乙卯、雪降、今日大乘講申行之、見別記、○別記年

十四日 丙辰、晴、早旦還御也、余又退出、

十六日 戊午、御髮上也、長頼申沙汰之、出車永基献之、女官出車出納進之、藏人知興參向、女官同車云々、

十九日 辛酉、晴、向中山許、明日如法泰山府君御都狀草付之、自今日於青蓮院殿被行普賢延命法、結願着座事昨日被仰之、如然事等又相尋了、

廿日 壬戌、晴、今夜如法泰山府君御祭、於室町殿被行之、御代官一色右馬頭云々、有世卿奉仕之、

廿一日 癸亥、晴、自今夜三ヶ夜東方清流御祭文昨日草進之、奉行中山大納言入道也、昌算法印奉仕之、

廿五日 丁卯、晴、午剋參青蓮院宮、今日普賢延命法日中結願也、兼日中山大納言入道以使者御点之由相触之間申領狀、長頼同御点可伴參云々、仍所召具也、室町殿可有渡御也、公卿着公卿座、其日彼入御後、先有一献、暫被始之、阿闍利出南面

妻戸、進道場給、其日一座被行之、其後清長・永藤兩人妻廂御簾、卷白幕、先是長方朝臣卷内陣白幕、室町殿御座御聽聞所、垂髮等祇候、有一献、公卿坊

城大納言其日、權大納言其日、三条大納言其日、新藤中納言、西園寺中納言、下官・中院宰相中將着簀子座其日、次引御馬人其日、坊官一人進出請取之、次被引御布施、公卿自

上臈起座取之、阿闍梨一重一褰也、一重坊城大納言取之、其日妻物教遠朝臣也、次第引之、殿上人滿一朝臣・教遠朝臣・教興朝臣・長方朝臣・定頭・清長・永藤・長

頼其日、伴僧廿口也、仍殿上人重反、滿一朝臣為家司、最末御布施引之、公卿自下臈起座、次第退出、室町殿猶御座、有御酒宴、入夜還御也、

廿七日 己巳、晴、入夜雨降、貢馬御覽也、支配見左、日野大納言參内申沙汰之、長頼參内奉行也、

一(青)室町殿 二(鹿毛)御殿 三(栗毛)北小路前大納言 四(栗毛)勘解由小路一位入道 五(鹿毛)左馬寮 六(河原毛)関白 七(鴉毛)中山大納言入道 八(鹿毛)日野大納言 九(黒)藤中納言 十(黒栗毛)右馬寮

内侍所御神樂恒例臨時同時被行之、奉行恒例定頭、臨時滿一朝臣也、共以当日定頭奉行、有行幸、長頼參候了、

廿九日 辛未、晴、閻魔天供御祭文成草、隨身付中山了、其後參室町殿樽見參、大樹同懸御目了、

今日檜柴宿所以下有水流、上御所進之(近之)馳參向、無為珍重々々、卅日 壬申、晴、追躰、上卿新藤中納言、奉行經曼也、長頼參内、

応永六年己卯

四月大

一日 辛丑、

三日 癸卯、晴、今日崇賢門院内々御参内、一献可奉行之由被仰下、雖申故障、再三被仰下之間、調進之、千疋被下行之、御精進御魚味也、長頼参内申沙汰之、兼宣朝臣祗候云々、

今日室町殿渡御東洞院亭、今年始也、資国卿此四ヶ年御勘氣、今日御対面御免云々、珍重々々、

四日 甲辰、晴、向日野大納言亭、昨日渡御并相公御免事賀之、今日御出上杉衫、御供沈酔云々、

五日 乙巳、今日中山禪門奉書到来、自来八日東方清流御祭文可草進由也、春日社所々羽織出現事注進到来、被行御卜之處、卜御形如此、被遣社家長者宣、長遠朝臣書遣了、

七日 丁未、晴、賀茂祭料足支配右馬寮使御訪并一献分千疋切符、自東洞院送給之、遣伊勢守許、取消式部判、宝寿坊沙汰之、

八日 戊申、平野祭延引、次支干云々、東方清流御祭文、昌算法印行之、御祭文昨日草進之、

九日 己酉、晴、左馬寮領内鳥糞東西牧、被返付今出川大納言、今日被下御書、北小路大納言申沙汰也、又幕下事可有御沙汰之由被仰、為畏申参室町殿云々、

今日梅宮祭也、出車知興献之、上卿三条大納言、并經豊朝臣云々、

旧院御八講参事、藏人權弁定頼御教書到来、文道事相憑之由申之、礼節一段書上之、父卿同前也、

後円融院 聖忌、於安樂光院可被行曼荼羅供、可令参仕給者、依天氣言上如件、定頼謹言、

四月九日 權右少弁藤定頼(奉)

進上 菅宰相殿

礼紙云、

追言上

別被下御点、必可令存知給之由、同被仰下候也、恐々謹言、

十日 庚戌、晴、室町殿渡御東山如意寺、聖護院門主被申之、青蓮院官御参会云々、

執柄今度供養不被召具馬副、違時宜、此間種々被問答申、今日無御参会無念也、氏神鳥居去比顛倒、今日加修理取立之、

十一日 辛亥、参執柄、馬副事時宜不快、每日以新宰相御狂言交被責勘申云々、今日北小路重相息進士資重(九歳)説書始事申給、着狩衣罷向、授幸經了、重相為室町殿御共、参浄土寺、然而申置豊光招引之間罷向了、有三献、

十二日 壬子、今日柳原姫宮《禁裏御妹》有御事云々、

十三日 癸丑、向北小路重相亭、三条大納言以下参會、馬副事猶有沙汰、彼御諸方意見不可召具之由示之間、違時宜、其間事、為令申合也、執柄此事以外時宜不快、被辞申職、新宰相持参御辞狀之處、可被申公家之由有御返事、不被召置云々、新宰相辭退職云々、

十四日 甲寅、向北小路、其後参執柄、就馬副事、昨日被辞申當職之處、不可知食、可被申公家之由被申、御素懷事、元來興福寺供養以後可有沙汰之由、兼被約申了、此時分御沙汰可宜敷由、今日北小路重相申意見、謁新相公申之退出、今日聖護院可有御絶交之由被申云々、於事以外儀也、

自今日於北山殿青蓮院宮御勤仕大法花法、伴僧卅二口、脂燭教遠・教興・隆直・為守・長方等朝臣云々、

今日禁裏御妹珠子内親王《御座柳殿》有御事云々、御錫紵近年被略之、無御着用云々、昼

十六日 丙辰、雨降、晝間天晴、今日葉室大納言(宗顯)申拜賀、先参北山殿舞踏、剃及兩度、御入興云々、被下御法衣、今日以後遂素懷事、先日伺申、有御免云々、申斜参内拜賀、申次定顯也、父大納言之時、宗顯卿《于時職事》勤之例云々、

着殿上、有御對面、其後着宜陽殿、次着陣、權弁定顯、史高橋秀職祗候了、行粧前駟一人、如木二人、子息藏人權弁定顯後車、《古車也云々》、

十七日 丁巳、晴、参執柄、今度興福寺供養、大將殿不被召具馬副、違時宜、此間再往御問答、元來三ヶ度御再任、大儀以後可被辞申、又可被遂御素懷之由思食、大將御拜賀以下御計會遲引、御當職事雖辞申、不被召置、旁以時宜難測之間、御素懷可然之由、入魂之仁等有之、今夜於香光院殿有御沙汰、御戒師中院々主全基法印也、

堅固内々儀敷、新宰相季尹卿、於瓦堂同遂其節云々、全繼朝臣同素懷、

十九日 己未、晴、自今日於北山殿被行法花儀法、有御共行云々、御人數、房淳僧正、勝林院僧正并門弟四人、心兼法印、散花殿上人滿一朝臣・教興朝臣・長方朝臣・經豊朝臣・重房・資高・有光・永藤・持光・定光有御樂、所作人々、

今夜闕白宣下也、一条前博陸御再任也、今度不及御所望、遮而御沙汰、御幸運至也、

被御流、峯殿安貞二年十二月廿四日、円明寺殿文永二年閏四月十八日也、今朝頭弁兼宣朝臣可為明日之由相催大内記長頼、而未剋定顯相触可為今夕之由、仍詔書成草、

内々覽博陸、無子細之由有仰、御再任之時、兵仗宣下也、無勅書、貞治度後福光

園殿御再任被經御沙汰、任安貞例無之、上卿三条大納言（実豊）警固奉行行次、有此宣下、大内記不參、草清書内々付奉行定頭、右大史秀職參役云々、中務輔不參、詔書被下權大外記重貞云々、後聞、今夜四位兼治宿禰・大外記頼季持參宣旨等、殿中申次宣俊朝臣、氏長者兵仗等宣下云々、

警固諸衛經良朝臣、藏人源師仲等參陣云々、安樂光院御八講僧名定有之、上卿同前、奉行定頭為弁、則書僧名歟、

廿日 庚申、晴、北山祭礼也、見別記、〇別記

自今日於安樂光院、奉為後円融院七回御仏事被行御八講、兼日奉行藏人權弁定頼相催、進被改藏人左少弁重房了、着座公卿、權大納言（公仲）、三条大納言（実豊）、德大寺大納言（公俊）、中院大納言（通宣）、花山院中納言（忠俊）、四条宰相（隆信）、堂童子、左資敦右長頼、行香公卿六人列也、奉行重房參北山殿御佛法散

花 數、雖相待遲參、仍鐘事以六位史秀職被仰之云々、師仲・永基等出仕云々、及深更御講了云々、僧衆五ヶ日手番如此、

御八講

證義者

權僧正

初日

朝座講師房雄 問者房眷 誦師幸円 唄心尊 散華房親 行香呪願權僧正 三礼房

暮座講師房眷 問者房雄 誦師心尊 唄定聡 散一房助

第二日

朝座講一幸円 問一心尊 誦一房雄 唄房眷 散一房祇

暮座講一心尊 問一幸円 誦一房眷 唄定聡 散一暹秀

第三日

朝一講一房親 問一定聡 誦一房助 唄房雄 散一心明

暮一講一房助 問一暹秀 誦一定聡 唄幸円 散一房親

第四日

朝一講一房祇 問一心明 誦一房親 唄房眷 散一暹秀

暮一講一定聡 問一房親 誦一心明 唄幸円 散一房祇

結願日

朝一講師暹秀 問一房助 誦一房祇 唄心尊 散一心明

暮座講師心明 問一房祇 誦師暹秀 唄房雄 散一房助 行香呪願權僧正 三礼暹

秀

今日北山殿御佛法散花衆、如昨日云々、

賀茂祭宣命、今日行嗣來取之、

廿一日 辛酉、朝間雨降、晝程天晴、今日賀茂祭也、御棧敷北小路相奉行、自北山殿御出、御車御牛飼十餘人（水干）、御共殿上人滿一朝臣・教興朝臣・長方朝臣・經豊朝臣・重房・有光・永藤・持光、皆絹狩衣、総鞆、刷行粧、青蓮院宮・聖護院門主・三寶院法印連軒、面々牛飼等濟々被召具之、於一条町邊被教（ママ）御車、希代見物云々、勘解由小路一位入道・日野大納言等參御棧敷云々、傳聞、於北山殿門内被立御車、被御覽三人行粧、於一条町邊三車立、左右被見車御出御行粧云々、還御時分又降雨、

賀茂祭行列、

左右看（管）長（二行）、次檢非違使左衛門少尉坂上明定 次山城介藤原宣能 次内藏助丹波俊興 次右馬允藤信廣 次近衛使右少將源資高 次女使典侍藤資子 命婦中原富子 藏人賀茂賀子 今日安樂光院御八講不被行之云々、

北山殿御佛法還御後有之云々、

廿二日 壬戌、晴、今日北山殿大法花経日中結願也、自去十四日始行、昨日可被結願之處、賀茂祭日之間、延引今日了、且建久慈鎮和尚御勤仕有延引云々、奉行頭中将滿一朝臣也、取松明參仕、長頼・長政同車了、今出河大納言外無人、後夜御時程也、定法寺僧都云、可為五程云々、人々次第參集、此間以北小路大納言被仰下曰、

〔二条殿キ〕御素懷事、何様子細哉、驚入之由、明日為御使可參云々、被仰下則被

下御書、申畏承由了、已剋阿闍梨御入道場、御時結願、次永藤、長頼卷扇御簾并幕等、次經豊朝臣卷内陣幕、次公卿着簀子座、時東一四部立御簾三司今出河大納言・坊城大納言・藤中納言・西園寺中納言以上皆・下官等也、次滿一朝臣（帶劍）進今出河大納言座下、仰勸賞事、之由還入、大納言起座、進阿闍梨座下申之、復座、次教興朝臣、

衛府一人引出御馬、坊官請取之、次公卿次第起座、取御布施、阿闍梨一重今出河一裏今出河護摩壇竹内僧正一裏今出河以下皆一裏也、卅二口次第被引之、公卿五人之外、御布施教遠朝臣・教興朝臣・隆直朝臣・為守朝臣・長方朝臣・經豊朝臣・永藤・長頼・長政等也、引了公卿自下臈起座退入、

御書云、

御素懷之由傳奉候、何様子細候哉、驚入候、其間事以秀長卿令申候也、誠恐敬

白

四月廿三日

道一



桃李花一帖（青春樂序） 同破 央宮樂 河南浦（平蛮樂） 海青樂 拾翠樂急

鳥急

結願、

廻杯王 鳥急 賀殿急 武德樂 陵王破

五日 乙亥、室町殿御出坂本小五月会也、菖蒲輿自大原柱等沙汰之、五疋下行衛士了、

八日 戊寅、晴、室町殿今日御出青蓮院序鳥居小路坊隆惠法印、御恩拝領賀札於此坊沙汰之、今夕大樹御母儀（北向、）有御事、自去年羸劣御惱云々、御年四十二也、

九日 己卯、晴、今日室町殿御衰日也、仍人々不參御訪云々、今日御出八条寺、其次御出赤松伊豆入道許、有御大飲云々、彼御事無御悲歎歎、

十日 庚辰、早且參室町殿、妙法院宮以下濟々參会、但不及御対面、人々申入之、中々有御憚之様、申次等申之、面々退出、御方御所御座向御里、於門外付伊勢守申入了、

來十二日、泰山府君御都狀草進、付奉行頭弁兼宣朝臣了、

十一日 辛巳、晴、大樹御座等持寺御忌中云々、教冬朝臣祇候、其外伊勢守貞行以下近習登祇候云々、

十二日 壬午、晴、伝聞、今日青蓮院宮・聖護院門主入北小路大納言亭、兩人御振舞《各二千疋》、室町殿御參会御大飲云々、

自今夜於北山殿聖護院被行大六字法、脂燭教冬朝臣・隆直朝臣・為守朝臣・長方朝臣等、指大阿闍梨、長方朝臣指護摩壇、《常住院僧正》皆以束帶也、長遠朝臣寄宮三宝坊了、○以上三行十一日來云々、  
又、餘本ニヨリ移ス、

大六字法、

護摩壇、

前大僧正 尊經 息災、

增珍 延命、

僧正 賴昭 增益、

權僧正 房深 調伏、

豪猷 鉤石、

範伊 敬愛、

此外助修廿人、

十七日今日泰山府君御祭有世卿奉仕之、

十七日 丁卯、明日妙法院宮叙品事、奉行重房催之、御位記料紙事、任近例申本所、百疋被下行之間、仰付了、

十八日 戊子、晴、今夜有叙品宣下事、上卿權大納言（公仲）少納言言長朝臣、中務輔藏人丞長政、大内記長賴位記作進之、奉行職事藏人左少弁重房也、小外記師野云々、

十九日 己丑、晴、今日北山殿大六字法日中結願也、奉行頭弁兼宣朝臣兼日御点之由催之、仍弘曉召具長政參仕、（束帶、）道場之儀、御本尊等皆被撤之、只可為御加持許云々、剋限大阿闍梨以下入道場、次公卿、日野大納言《衣冠、下、》坊城大納言《束帶以下同前、》藤中納言・中院中納言《光頭、奏慶舞踏、申次教興朝臣如木二人、侍一人上具之、》下官・橋本宰相中將等著座、次勅賞《日野大納言進阿闍梨傍申之復座、》次公卿自上臈退取御分施、先御馬《教興朝臣、衛府一人、》次被物二重、《兩大納言、》裹物、《隆直朝臣、》次常住院僧正分被引御馬、《同人引之、》次被物一重、《藤納言、》次勅賞事、兼宣朝臣進申之、《御布施以前可申歎、》裹物《為守朝臣、》次実相院僧正分、被物一重、《中院納言、》裹物《經豐朝臣、》次賴昭僧正裹物《下官取之左肩中風氣、不挾笏、仍懷中了、》次房深僧正裹物《宰相中將、》次豪猷僧正裹物、《定頭取之、》次範伊僧正裹物《兼宣朝臣、》次公卿自下臈退入、次僧衆自下臈退、四人僧正自取裹物退、三人貴種伴僧皆撤之、此後退出了、妙法院宮叙品御位記、今日内々長賴副書狀進入之、付日嚴院法印了、大樹代二百疋、使祿布代三十疋被下行了、被任近例之由、内々庁法印送書狀了、

廿日 庚寅、晴、今日於一條竹鼻有勅進猿樂、《觀世、》御棧敷赤松繪州禪門用意之、

青蓮院・聖護院等入御云々、

廿一日 辛卯、晴、參執柄、大塔供養御出立取帳有沙汰、予執筆書之、

廿五日 乙未、晴、今日勅進猿樂御棧敷、管領奉行云々、青蓮院・聖護院等同御見物云々、御大飲狂言、猿樂教反尽了、

廿八日 戊戌、晴、今日勅進猿樂也、右京大夫申沙汰之、兩門主又御參会云々、

六月

一日 庚子、晴、今日洞院故内府実夏公、卅三廻願文事、左府被申送之、草遣了、

課長遠朝臣草之、導師房深僧正云々、忌火御飯、陪膳言長朝臣、御贖物就日下臈師仲參仕云々、

七日 丙午、晴、祇園祭也、神輿御出、為御見物室町殿渡御京極大膳大夫入道宿所、青蓮院宮・聖護院・三寶院・日野大納言・北小路大納言等參会云々、御大飲之風流盡美云々、

九日 戊申、晴、今日室町殿渡御日野重相亭、(慶一)初賞翫云々、此間御寵愛異他、棧敷以下諸大名結構此事也、青蓮院・聖護院・三寶院等參会云々

十一日 庚戌、晴、月次祭也、奉行藏人佐清長雖未拜賀申沙汰之、上卿

十二日 辛亥、晴、解齋御粥、陪膳言長朝臣也、

十三日 壬子、晴、今日後福光園院殿御正忌也、於中院殿被修理趣三昧御諷誦事、昨日被仰下、御法躰御自修可然敷之由存之、草進之、奉書佛子、無子細之由有仰、

十四日 癸丑、晴、祇園神輿還幸也、今日室町殿御出京極入道棧敷、雖為四「三敷」  
一条風流、自三「四敷」一条大路可參之由被觸之、山杵以下結構、超過先日風流盡美、

十五日 甲寅、祇園臨時祭、御禊陪膳兼宣朝臣、役送定願《奉行職事》、宣命長賴草進、上卿三条大納言、使散位平時成朝臣云々、

十七日 丙辰、晴、此間炎旱御祈被仰十人、被行水天供、奉行日野大納言也、

十八日 丁巳、朝晴夕雨、自昨日水天供、効驗珍重々々、甘澍民欲娛敷、今日可有祈雨奉幣之由被觸之、降雨之間、尤被延引了、

廿二日 庚申、晴、三万六千御祭文、今日付奉行頭弁了、

廿三日 壬戌、晴、今日三万六千神御祭、有世卿奉仕之、御祭文章進奉行頭弁兼宣朝臣也、自今日五壇法也、於北山殿被行之、中壇青蓮院宮、其外竹中僧正・岡崎僧正・竹中僧正・忠慶法印等也、一門招請也、助修中壇八口、自餘各六口敷、脂燭殿上人、教遠朝臣・教興朝臣・隆直朝臣・為守朝臣・長方朝臣、皆布衣云々、中壇許也、

廿四日 癸亥、晴、今夜祈雨奉幣也、奉行藏人權弁定願催之、宣命成草、内々渡奉行了、權大外記重貞從參役云々、上卿三条大納言《実豊》、弁定願、史秀職、外記重貞、使一一、

廿五日 甲子、晴、罷向結城越州宿所《北山》、政所奉行事賀之、对面、吉祥院事近日可執沙汰之由令申、第一大慶也、次參室町殿御方、構見參、御母儀御中陰已闕、一昨日御帰第也、

伝聞、於北山殿有御酒宴、種々課物被出之、有鬮云々、二百種云々、希代事也、

廿七日 丙寅、晴、今日大塔供養日時定并行事定也、伝聞、上卿左大臣、《実冬公》、公卿藤中納言《資衡》、吉田宰相《家房》等參陣、建久隔中兩月有此定、仍被模其例云々、僧名同時也、而未整之間、今度先日時并檢校行事等許被定之、日時陰陽頭在方朝臣勘申之、檢校以下定文相公書之、其書樣如此、不相違建久書樣也、

檢校、

左大臣、

応永六年六月廿七日、

行事、

右近衛大将藤原朝臣公行、

權大納言藤原朝臣俊任、

權中納言藤原朝臣資衡、

權中納言藤原朝臣実茂、

參議藤原朝臣家房、

參議藤原朝臣隆信、

応永六年六月廿七日、

行事、

左中弁藤原朝臣資家、

右中弁藤原朝臣経豊、

左大史小槻宿禰兼治、

右大史清原真人頼季、

応永六年六月廿七日、

炎旱御祈水天供自今日又被行之、先日十人阿闍梨主被仰云々、  
廿九日 戊辰、半晴半雨、大祓、出車、教仲出之、

七月大

一日 己巳、天晴、今日北山殿五壇法日中結願也、奉行《頭弁キ》兼宣朝臣兼日催之、仍卯剋著束帶召具藏人長政參入、人々參集、以寢殿被構道場、

【指図】

先青蓮院宮御入道場、御加持、助修六口、唱札二口、御加持了、伴僧退入、兼宣朝臣《進キ》日野大納言《直衣、下》前、仰勸賞事、追可被仰云々、日野大納言進阿闍梨傍、仰之復座、次被引御馬、教興朝臣《束帶、立馬右、衛府一人立左》引出之、坊官一人進出請取之、次日野大納言起取被物、《長政伝之》置阿闍梨前復座、次教遠朝臣取裏物、其後伴僧撤御布施、次宮御退出、次竹中僧正著座、《小文西面》御加持了伴僧退、坊城大納言取被物、《長政伝之》隆直朝臣取裏物、伴僧撤之、僧正退入、次岡崎僧正《桓教》同前、藤中納言取被物、為守朝臣取裏物、次竹中新僧正同前、中院中納言取被物、為守朝臣又取裏物、次忠慶法印同前、余取被物、《長政伝之、踰居》復座、次奉行兼宣朝臣取裏物、次余起座退入、次第各退入、  
七日 乙亥、晴、乞巧奠、長政申沙汰之、  
北山殿五十人各七瓶花合也、小袖各持參、有鬮云々、青蓮院宮・聖護院以下濟々也、一度鬮小袖七重云々、及三四百小袖云々、



十六日 甲申、晴、參二條殿、來九月十五日御塔供養呪願導師腰與駕丁等事有御問、御申詞被仰談之、大法會時、御導師一人勅請例連綿也、兩口儀先規未分明、一人已乘用、兩人又准據歟、且大講堂并興福寺供養之時、兩人共乘之云々、近例分明也、其分被申云々、

廿日 戊子、晴、於北山殿自今日大北斗法聖護院前大僧正御房勤修之、七壇也、常住院僧正・実相院僧正・頼昭僧正・房深僧正・蒙猷僧正・範伊僧正等勤修之、其外助修廿口也、御祭文予草進之、奉行頭并兼宣朝臣也、明德卅三御重厄之時、被行此法、為御佳例、仍有沙汰歟、脂燭教遠朝臣・教興朝臣・隆直朝臣・為守朝臣・長方朝臣、皆束帶也、天曹地府御祭有世卿勤仕之、御祭文章進之了、

### 【指図】

次公卿、日野大納言《直衣、下》、坊城大納言《束帶、已下同》、藤中納言・中院中納言・下官着座、次御加持、次助修等退入、次日野大納言進大阿闍梨前、仰勸賞事、《追可申歟》次同人直退入、取被物、《長政伝之》、置大阿闍梨前復座、又一重坊城大納言取之、次教遠取被物、次教興朝臣與衛府一人引出御馬、坊官請取之、次藤中納言取被物、置常住院僧正前、隆直朝臣取同被物、次中院中納言取実相院僧正被物、教興朝臣取被物、次予取頼昭僧正被物、次為守朝臣取房深僧正被物、次長政取蒙猷僧正被物、次兼宣朝臣《奉行也》、取範伊僧正被物、次四人僧正自取布施退出、次伴僧等參進、自下臈撤布施、次大阿闍梨伴僧參進撤布施、次三人僧正自下臈退出、次又伴僧二人參進、撤草座・香爐筥、次公卿自下臈退出、次大阿闍梨等退出、

### 八月小

一日、己亥、半晴半陰、八朔之儀面々送之、莊子口義十冊進室町殿、今年於北山殿有御沙汰、大樹御方進秘抄十冊了、

四日 壬寅、晴、北野臨時祭、奉行藏人權弁定頭、上御權大納言《公仲》、宣命長政進、則勤使、五品後初度之、御陪膳滿一朝臣云々、

六日 甲辰、今日故万里小路内府一回也、願文事左少弁誂之、草遣了、消書同染筆、

七日 乙巳、晴、北山松殿、日野重相、自去月未祇候之、今日罷向一見、勝地也、亭以下巡見了、

九日 丁未、晴、尺笈也、參行、見別記、

○御祭本  
北山殿

十日 戊申、自常住院僧正御房被誂三井寺長吏辭狀、成草持參了、

十三日 辛亥、天晴、今夜日野大納言可參由申之、仍召具言長朝臣・長遠朝臣・長頼・長政等、參内、明月殊勝、和漢一折并御短冊有之、為右朝臣參仕了、

十四日 壬子、晴、放生會宣命、内々付進勾當内侍了、内藏助惟宗俊興、長世入道扶持之、今日可參内、則被下宣命御樣、可申入之由申之、仍申勾當了、今日被出云々、

十五日 癸丑、晴陰不定、今日放生會、上卿日野大納言《資教》、三条坊門宰相中將、《通守、雖未拜賀、參向》、右少弁豊光《外記》、史秀職、右馬頭兼教朝臣、北畠中將、隆直朝臣等參向了、御導師心兼法印也、奉行職事藏人左少弁重房也、今日明月百首御短冊、自内裏兼日被賦之、御人數、左府・日野大納言・藤中納言・別當・飛鳥井中納言入道・小倉前中納言・高倉宰相入道・為右朝臣・公宣朝臣・下官《七首》、不及披講、被取重之云々、

十六日 甲寅、晴、駒牽、奉行頭中將滿一朝臣、

十八日 丙辰、晴、參北山殿、於新少納言休所面々參會、大塔供養為見任不參、有其恐、為職無念、仍直參御寺可候着座之由存之、内々可伺時宜之由、示長方朝臣、次向浦松殿、《日野重相休所》、面々會合、半更掃宅、

十九日 丁巳、晴、參北山殿、着座事可參仕之由、以長方朝臣被仰下、眉目也、近日人々所望、皆以不許歟、構見參了、退出、向浦松殿、

參二條殿、今日大塔御次第事被申之、仍被召之間、所參也、兼治宿禰參仕、御次第堂莊嚴分先被草之、余執筆、及晚退出、

自今夜《入夜甚雨》、於北山殿被行大法、《無名法云々》、慈鎮和尚此法樣被注置、但不被行、任彼所見、始令行給云々、大阿闍梨青蓮院宮、脇壇二人、岡崎僧正・竹中僧正、助修廿一口也、脂燭教遠・教興・隆直・為守・長方等朝臣、束帶、

廿一日 己未、晴、參二條禪閣、御塔御次第今日被成立、長頼奉仕中書、明且先内々可被遣奉行勸解由小路一禪之由有仰、半更退出、

廿二日 庚申、復任除目延引、今日室町殿御誕生日之間、御斟酌云々、

廿五日 癸卯、晴、未明著束帶、參北山殿、大法結願也、為御布施長頼相具可參之由、奉行頭并兼宣朝臣催之、長政同車、已剋御時被行之、其後隆直・為守等朝臣卷内陣幕、永藤・長頼等卷廂御簾等、次公卿日野大納言《直衣、下》、坊城大納言

《俊任、束帶》、藤中納言《資衡、束帶》、中院中納言《光頭、束帶、今日被仰勸授當一云々》、下官《束帶》、著座《西上北面》、次有御加持、次日野大納言進阿闍梨傍《内陣》、仰勸賞歟、

次引御馬《教興朝臣《束帶帶劍》、衛府一人《真下左衛門》、坊官請取之、《後大

童子、《次日野大納言起座、取被物、置大阿闍梨前、《入正面西間、可入正面間敷、》復座、次教遠朝臣取裏物、《入正面間、》次坊城大納言起座、取裏物、置岡崎僧正前、《母屋外、北上東面、》復座、次藤中納言起座、取裏物、置竹中僧正前、《岡崎僧正同座東面、》復座、次中院中納言取助修第一裏物、次下官取同第二裏物、《長政伝之、公卿皆如此、》復座、殿上人教興・隆直・隆躬・為守等朝臣、定頭・永藤・定光・長頼・菅原長政、重反取之、兼宣朝臣最末取之、次伴僧次第退、兩僧正自持布施退、次忠慶法印參進、取阿闍梨被物、於巽角高欄授坊官、尊雅僧都參進、取裏物、同授坊官、心俊僧都取香爐篋、阿闍梨御退出、其後公卿自下臈退、阿闍梨猶御座、有一獻云々、

廿七日 乙丑、晴、今夜御塔供養案所始也、於北山殿被行之、長政參仕、奉行頭并兼宣朝臣也、

廿八日 丙寅、晴、自今夕御參籠北野、仍祇候明尊坊、向東洞院垂相休所、《西僧坊南妻、》

今夜御塔供養僧名定也、上卿左府、

廿九日 丁卯、向三寶院休所、〔《政所南面、》キ〕

九月

一日 戊辰、隨身一樽、向東洞院垂相休所、北小路垂相等參會了、

二日 己巳、晴、青蓮院宮・聖護院等御參、御大飲入夜云々、

四日 辛未、晴、今夜八幡一社奉幣、被申御塔供養事、上卿坊城大納言、參議家房卿・隆信卿等參陣、使中院中納言、次官兼朝臣、宣命長頼草進、參陣了、結政請印、四條宰相、少納言言長朝臣參行了、

五日 壬申、晴、早且御還向、御車慶御丸御同乘也、日野大納言・北小路大納言・教興朝臣・長方朝臣等同車御共、其後余退出、

九日 丙子、晴、平座、上卿 [ ] 少納言範輔朝臣、奉行職事左少弁重房、十一日 戊寅、晴、禁中大死穢之間、例幣延引、御願文今日持向奉行許了、

今日大宮前大納言〔実尚、〕帛泉云々、無子息、家領等寄進國師、為相國寺領、

十二日 己卯、晴、向頭并許、御願文商量、少々申愚存了、次參青蓮院宮、御願文令点持參之、有御感、

十四日 辛巳、天晴、今夜被行明日供養折晴奉幣、丹生・貴布祢兩社也、宣命長頼草進之、奉行頭并与奪定頭了、上卿藤中納言、宣命草清書渡奉行了、

十五日 壬午、晴、相國寺御塔供養也、

十六日 癸未、晴、室町殿、為被賀申昨日無為、御出青蓮院宮也、聖護院御參會、御大飲入夜、御導師御布施二千貫被進之云々、

今夜月蝕正現、

十七日 壬申、晴、參北山殿、構見參、大乘院・一乘院以下被參賀了、其後向浦松殿、垂相對面、

廿二日 丁丑、自今日於北山殿聖護院僧正御房被行金剛童子法、常住院僧正・実相院僧正・南瀧院僧正・住心院僧正・此外助修十八口也、脂燭殿上人教遠朝臣・教興朝臣・隆直朝臣・隆躬朝臣・為守朝臣也、

自今日有世卿於私宅修七ヶ夜泰山府君御祭、御都狀余草進之、清書行俊卿、

頭并兼宣朝臣也、

陸座、〔絶海、〕拈香、〔觀中、〕云々、故大納言時光卿

〔仏事也、〕故日野大納言〔時光、〕三十三回也、仏事經供養

〔導師房淳僧正遺誦誦云々〕予草之、

廿九日 甲申、晴、今日大法日中結願也、未明着束帶、召具長政參北山殿、先有御加持、於大法悉被撤道場也、着座公卿、坊城大納言・藤中納言・中院中納言・下官

・橋本宰相中將五人、皆束帶也、殿上人脂燭人數也、大阿闍梨二重一裏、上首次第取之、御馬一疋、教興朝臣・真下右衛門等引之、常住院・実相院一重一裏、頼昭・豪融兩僧正一裏也、御布施了公卿自下臈退、其後僧正以上次第退了、大阿闍梨護摩壇勸貨事追被仰之、大阿闍梨坊城大納言進座前申之、護摩壇奉行兼宣下申之、

卅日 乙酉、晴、今日自禁裏被下御短冊七首、可持參之由被仰下之間、參内、先有和漢五十韻、清長執筆、余・為右朝臣・長遠朝臣・重房・清長・長頼也、有御短冊、此人數、重房不詠之、永俊朝臣詠之、

兼日五十首御短冊御披講也、

御製・左府・日野大納言・飛鳥井中納言入道・余・高倉宰相入道、為右朝臣、勅題当季恋雜也、講師清長也、及曉天之間、女房祇候、於常御所御會也、

応永八年  
正月大

(五日、前關)

今日於内侍所來賀今年正月侍 [ ] 御訪 [ ] 入候二千五百疋 [ ] 仍五衣 [ ] 調  
御單、自御所被下之間、重々其外被調也、

六日 丙寅、小雪降、伴勾勘 [ ] 向東洞院亭重相 [ ] 時分也、對面三獻 [ ]

其後向北小路重相、對面三蓋、亦向勘解由小路一品禪門、對面、數剋 [ ]

今日在直來賀、勸一獻、遣引物了、

七日 丁卯、晴、人日之節、仙年之齡、祝着々々、今日節會奉行藏人左少弁重房也、  
入夜執柄入御此亭、申一獻、其後人々着御裝束賜、今日御劍 [ ] 代々 [ ]  
御外、小節會用之  
御外、小節會用之

鷲尾宰相、一今夜御酒勸使吉田宰相 [ ] 雜事催祿所兼宣朝臣 [ ] 輔代一人 [ ]  
坊家 [ ]

今日早旦參北山殿、 [ ] 長方朝臣 [ ] 事可披露申、人々 [ ] 雖不仕、不及御對面、  
皆付得 [ ] 仍其分也、得 [ ] 對面、出白散及引物 [ ] 雖不仕、不及御對面、

[ ] 對面向三宝院坊、有一獻、及引物、其後 [ ] 對面賀之、掃宅、  
今日久長朝臣來賀、勸一蓋、

白馬節會

公卿

權大納言 九条中納言

藤中納言 吉田宰相

鷲尾宰相 兼宣朝臣

少納言

定長朝臣

弁

經豊朝臣

次將

左

宗重朝臣 隆直朝臣 公邦朝臣  
右  
經良朝臣 実秋朝臣 資 [ ]

八日 戊辰、晴、參詣祇園社、其後參青蓮院宮、御對面、被下三獻 [ ] 永行  
禪門父子參會了、鷲尾宰相參會、手鞠突童等參賀、尽其藝見物了、有其興、

九日 己巳、雪降、此間連日小雪、豐年之兆也、觀音堂風 [ ] 引 [ ]  
日野重相參會、於後亭終日會合、入夜掃宅、

十日 庚午、晴、明尊法眼來賀、二獻、在直入來、明日御祈始 [ ] 使 [ ] 事  
裝束以下 [ ]

玄為法印來賀 [ ]  
十一日 辛未、天晴 [ ] 參賀 [ ] 北  
山殿有御對面、如此時 [ ] 參賀畢 [ ] 弊車借用間、遣之、今  
日吉 [ ]

今日宣旨局伴申姫君來賀逗留、

今日北山殿 [ ] 三寶院掃(北山、)、聖護院門跡參會云々、其後 [ ] 聖  
護院 [ ] 所、青蓮院宮入御了、

十二日 壬申、晴、依召參執柄 [ ] 事 [ ] 人々有 [ ] 可被 [ ] 注文 [ ] 被申其間事  
申談 [ ] 可被參北山殿聖護院御 [ ] 所、条々申合了、二獻數剋一雜談 [ ] 次退出、  
申入御返事於執柄、掃宅

今日北山殿 [ ] 前 [ ] 兄弟宿所云々、  
十三日 癸酉、雪降埋地五六寸、風來敲窓十二時 [ ]

十四日 甲戌、晴、節分也、不及方違、日野重相向 [ ] 長頼 [ ] 有引物、  
十五日 乙亥、天晴、上元 [ ] 立春節 [ ] 珍重可 [ ] 幸甚、白散如  
例、左毬打 [ ] 等風流 [ ]

今日 [ ] 御忌入小施於清和院、

十六日 丙子、昼晴夜雨、踏哥節會也、執柄入御此逢 [ ] 有 [ ] 定御參内、下宣 [ ]

今日富小路任繼法眼坊 [ ] 梶井 [ ] 公方手始御誦始、參仕(狩衣、)一去年被  
始 [ ] 也、御引出小袖一重 [ ]

十七日 丁丑、晴、今日御弓始也、射手六人、  
於任繼法眼方有三獻、

陶山 [ ] 小串 [ ]  
村上 [ ] 佐 [ ]

代 伊勢勘左衛門

村上一人無云々、北山殿於結城越後入道宿所有御弓始云々、修理大夫入道御合手也、將軍家於室町殿被始之、御合手上野入道息云々、

十八日 戊寅、小雨降、夕陽晴、參北野社、兩息召具了、其後參北小路重相

若公年始御誦始、去年被始之、教任也、垂相息誦書、同有之、

長尋僧都自宇治來賀逗留、

十九日 己卯、晴、依召參執柄、宣俊朝臣參會、有御談合子細被

其後向東洞院亭、藤井前相公等參會、有教獻、

廿日 庚辰、雨降、

廿一日 辛巳、雨降及

此間并無水

降雨珍重、

廿二日 壬午、晴、參賀竹中僧正坊(狩衣)、教剋御雜談、為北山殿御祈自去々年

烟魔天供

去年御祭文

去年同祭文

今年又

三个年私修事

則御清書、去四日入

時

御着之、有三獻、

又參賀

僧正坊、有獻盃及引物、祝着々々、參富小路若公御誦書、

廿三日 癸未、晴、於北小路宿所有會合、東洞院重相以下濟々參會、有朝

以下

自今日吉祥院青

數十人

始之、珍重々々、

廿四日 甲申、晴、今日尊星王法日中結願也、未明著束帶、今日具長政參北山殿、

奉行猶不參、少々公卿參仕、御坐南御所云々、其間參

御所、大法無小賀了、三

喝食御同車御出、北小路大納言參會了、法樂詠史(殷本紀)、和漢百韻有之、御

以下用意之、及晚更了、

廿六日 丙戌、晴、於北小路重相亭會合、招引

罷向了、參若公御方御不例、不

及御讀書、

廿七日 丁亥、晴、入觀音堂風爐、其後於東洞院亭會合、

廿八日 戊子、晴、勘解由小路一位禪門

所向、東洞院・北小路兩大納言、

葉室禪門・藤井宰相・葉師寺別當・大教院以下數

入夜帰了、

廿九日 己丑、晴、東洞院招引北小路重相等、可來之由申之間、面々相伴罷向、葉

師寺別當・藤井前相公以下濟々、有監答等、終夜會也、余已帰了、

三十日 庚寅、晴、參内、准后御參内(直衣帶)、上乘院僧正(道尋)、得車候共

坊官二人(泰持法眼、慶範法橋)也、其外近習輩内々候共、長政以下六位等程者、

日野大納言有召參候、於常御所五獻、其内數度被聞食、時宜如此、積

云々、今

年行幸事、恐可申給者、被約申之云々、珍重々々、

今日

宿禰來賀一獻、

後正月小、

一日 辛卯、晴、閏正月初吉

今年幸甚、近例貞治二、永徳二也、伴長遠參

廟

宮、且昨日御參籠

僧坊、殊更申入礼、被召御前三獻程者御

給也、

今日御法樂

社

誦大

時分也

九日 己亥、晴、

十日 庚子、晴、罷向東洞院会合、

十一日 晴、光仲朝臣父子入來臨 来会合、勸 善 寺、当

一怒西堂來臨、去年於花園青蓮院殿御会参会 同 礼入來了、

十二日 壬寅、日暖風靜、今日日野重相相伴 参詣鞍馬寺、 并入道、

長頼等 入於市原野歇餉、

今日北山殿青蓮院殿於虛山寺御参会 心宣法印安居院坊云々、

十三日 癸卯、晴、向北小路亭、葉室重相禪門以下濟々参会、御弓以下会、及半更

掃宅、

十四日 甲辰、晴、依召参執 朝臣・長頼召具、各々有礼、侍從事

内々御生處對御方、社於座有一献等、其後参富小路若公御説書了、此間御不例、

今日可参之由有召 御忌、請清和院長老等、有時 今年初到來臨、

十五日 乙巳、晴、

如形引物遣之一 一位禪門送状曰、今日閑日来臨可 向、於彼一品学窓 有之

得父子也、心靜開

十六日 丙午、晴、今日左衛門佐 亭為賀礼葉室重相禪門・余・土御門二位・曾

法印・篋 以下 所向、各出也、敬献有之、帰路中可向東洞院会

合、入夜掃宅、

十七日 丁未、晴、南禪寺上乘院中誦侍者入來、論語所望之間、 学而談之、

隨首座執達也、其後参富小路若公御説書、任繼法眼一献、

自今日於北小路聖護院 行 不動法眼 五人如例、僧

正五人助 也、又泰山府君七ヶ夜開日御都状

十八日 戊申、晴、参 長頼召具之余 洞院重相・北小路重相・葉室重相禪門以下濟々

勘解由小路一位禪門亭有風 会合、

今日浄花院長老定玄入來 師三国

十九日 己酉、陰晴不定、誦侍者入來、談為政 了 参富小路若公、御目

御欲樂之間則退出了、自浄花院茶酒送之、賞翫、

廿日 庚戌、晴、兩息向北小路会、小被々々、浄花院

廿一日 辛亥、晴、勘解由小路一位禪門 入來 参会、勸茶酒了、

廿二日 壬子、晴、冷泉三 入來 参会、勸茶酒了、

其詣後誦侍者入來臨、八僧 勢州国 有世御御入僧入來 茶代

廿三日 癸丑、誦侍者入來、談八僧一

今日近江 以使者遣

廿四日 甲寅、天晴、晚鐘著束帶出立、参北山殿、長政相伴、今日不動法

也、人々少々参仕、先参候 所申誰 始僧中 著座、

聖護院《鈍色上、 同余資藤》

僧正、鈍色、白 此一人也、 《実相院、以上兩人着内陣、》 又摩《頼

列 二人、 兩人在東西面、 西上北面一

次上 卿日野大納言・坊城大納言《以上直衣、下、》藤中納言・中院中納言・下

官・左大弁《以上束帶》次第着座 退出、日野大納言進大阿闍梨

前、勸賞事追仰之、直於中門取被物 同 前復座、坊城大納言起座、同取被物

置同前復座、裏物隆直朝臣取之、引御馬、《一人左兵衛以下兩口引之、》一人 囑

左衛門坊官一人請取之、次藤中納言起座取 実相院分被物裏物隆直朝臣取之、次

中院中納言 僧正 下官取裏物、直 献僧正 次左大弁宰相

取之 僧正前、三僧正自持退、実相院伴僧二人撤被物裏物、次大阿闍梨被物

二重《一人撤之、》裏物《又一人撥之、》次 退様、兩人從僧撤香呂草座、次上《公

力》卿自下臈退座、余退出、

所今日右佐可説書之由申之、仍為向彼宿 天学説之、朝

正四位下三 院

連 御様先規 敷、於加階々御様時、彼載小

廿五日 乙卯、晴、参聖廟、兩息同参詣、今日法楽北小路大納言銀行、於勾勘方有

之、執柄 為殊渡 葉室大納言入道、式 以下也、一 如例、

和漢百韵、侍 周本記、一座以後大飲、及天明了、有乱舞等、

廿六日 丙辰、晴 北小路重相亭小 会、其間 一折、

入夜掃宅了、今朝冷泉三品《為中》入來、種代隨身之、賞翫数剋雜談、

廿七日 丁巳、晴、所《罷力》向寿阿許、右佐説合、有一献、其後所向三宅院坊、

有冷雜談、參聖護院御壇所、此間御不例、今但無殊御事、申入退出了、今日北山殿御留守於賀茂御鞠云々、  
廿八日 戊午、晴、丑剋出雲社有火事、  
廿九日 癸未、晴、尊空房入來、一獻、見數剋雜談、積申御入帰、其後參執柄申入了、其次条々有御閑談、子細等不及記、

二月大

一日 庚申、天晴、告朔幸甚々々、大方以下如例來賀、祝着、其後行參聖廟、長賴今日者所向右佐讀書、出一盞、帰路參富小路若公御讀、任繼法眼對面、殊更朔日一獻祝着、今日日蝕也、今晚四半強也、御祈大教院注是法印也、  
二日 辛酉、晴、勘解由小路一位禪門風爐也、所向、東洞院巫相・葉室巫相禪門等參會、入夜北小路巫相參會、有勝負等、狂詩等贈答有之、  
三日 壬戌、晴、參天生地、其次向方丈、長老留守、通眼相看、年始殊更祝着、  
審儀之、其後於延任宿所氣西山參會一帰、

四日 癸亥、晴、今日御經供養、御讀可廿奉政所分長重朝臣位署書月輪宰相入道定俊朝臣等參會、兩三位入道以下丁間、有一獻及退出竹田入道入來、昨日送之、賞翫遣引物太刀、數剋雜談了、  
今日祈年祭、上卿三条大納言実豊、弁重房、

五日 甲子、晴、罷向右佐讀書、無相待了、出一盞、其後參北小路若公并富小路若公御讀了、  
六日 乙丑、晴、時正中日、持齋開、罷向消北院、北小路巫相・葉室巫相以下參會法事、

多武峯御陵山鳴動、去月十一日注進、昨夕來、今日進執柄、被行御卜、在方朝臣注進在左、遣寺家了、御教書内々書遣之、此事自撰政殿御時多年奉行、仍付給之間、執進之、

恠異吉凶(去月十一日午時多武峯妙樂寺鳴動)

占、閏正月十一日辛丑、時加午大衝臨幸為用、將玄武、  
中傳送朱雀、終大吉白虎卦遇重審、

推之、可聞食口舌鬪諍事之上、可被誠火事欺、期彼日以後廿日內、及來九月節中置丙丁日也、兼致祈謝、至期被忌誠、其咎自銷乎、

応永八年二月六日

陰陽頭(賀茂才)朝臣在方

御陵山鳴動事、被行御卜候之處、占文如此、特致滿寺之懇誠、宜祈当山之安全候也、  
被仰下候狀如件、

二月六日  
多武峯檢校三綱 中

七日、

天地悠々教化成 從來斯道聖人城  
不材猶愧握蘭土 數向杏花思廟

此間何条御事候哉、抑尺奠明日每日不具雜談無極候、御計是又更不申候、詩事是も一向無沙汰、臨期無方角候、朽木形入見參候事々余々比與候也、何とも能様御直候て給候者返々可恐悅候、点而不可有御隔心候、可有御様拜候、併期參會候、恐々謹言、

二月七日

源舍

八日 丁卯、晴、向右佐、讀合有一獻、其後新少納言雜談、出一盞了、今夜積奠也、奉行藏人右兵衛權佐清長也、上卿納言故障之間、參議家房御參仕事今日入來不及添削、書様相尋之間、悉御座候者、件長適自關東上洛申、則少納言故障、不及力、家長申父朝臣

長遠朝臣・長賴、文人言長朝臣・為守朝臣五人同車參入、參仕、弁資家朝臣、座主役師云々、局面々夜半退出、北小路巫相・葉室禪門等參云々、重一盞、  
九日 戊辰、晴、時正也、昨日明重府女持參文章博士方今日入來、談論語(雍才)也、

自今夕北山殿御參籠北野也、公家盃日野大納言以下參候如旧冬、仍一身酌、無力不參籠(者才)也、  
十日 己巳、晴、聞、今日於北野一日御千句、皆梅御発句、五手、御前 青蓮院宮 聖護院 三宝院 上乘院 発句在左、

長賴自朔日迄今日毎日參内、  
聖廟一日千句御発句

神にいま手向の梅はさかり哉  
君ならて神や宮居の梅の花

梅いとに数しらゆふの井垣かな

神垣の梅又御代のめくみかな

御梅桜葉の宮居かな

梅さきて紅つゝく井垣かな

あひにあひて梅桜葉の宮居かな

千代懸て梅しらゆふの手向哉

梅か香のあらしにつきぬさかり哉

風吹て梅静なる句かな

十一日 晴、所向東洞院、参会、有一献、其後、出鴨川辺、摘土筆、余召寄榎於河辺賞翫、乘月帰宅、其後湯前入道伴賀男入来、賀男二百疋兄々振舞引出遣太刀（梅葉一）

十二日 辛未、晴、盛院快表律師去比自、初上洛、今日入来、一献（二種）、二幅、対面、一献国事

時々雨降、十三日 壬申、雨降、今日春日祭也、上卿日野大納言、弁豊光、（使力）、経良朝臣、少外記史等、内侍出車教冬朝臣進之、右衛門佐局等召具了、

今日 向北山右佐宿、説合、有一献、其後参北小路若公御説、其後参一位入道・葉室大納言入道・北小路大納言・左大弁宰相以下参仕、有和漢百韻、藤三位 朝臣・夷長朝臣・長政朝臣・長遠朝臣・為守朝臣・長頼等数献及乱舞、庭桜御賞翫、一種一献、（千疋红梅等）、入夜退出、

十四日 癸酉、陰晴不定、内侍乘燭帰京、上卿以下同前、十五日 甲戌、晴、参清和院、今日此事計会、不及招請、遣小十六日 乙亥、晴、向東洞院重相亭、有一献、其後向北小路重相亭、面々参会、入夜帰宅、

今日日蝕也、虧初辰五刻、後未辰七刻了、御折被仰菩提院僧正云々、六条時、参入来、今日 参会、有和漢百韻

十七日 丙子、陰晴不定、向北小路重相亭、月輪、参会、有和漢百韻

中間通一語平家、鶴鯨羚羊以下賞翫之、明日可参社之間、於羚羊者不食之、半更帰宅、

十八日 丁丑、晴、参聖廟、向三宝院坊、行向、少納言、厥后向北小路重相亭、面々車二両同乘、向竟鐘三昧寺、自去十五日閻魔堂供養大念佛有之、為丁聞也、

兼治言、引、及半更大飲也、和漢詩哥号於有之、帰路

重相庭花一覽、今夜宿北小路亭、葉室禪門合宿、暁天帰宅、今日園禪神祭、上卿藤中納言、弁豊光、内侍出車、件献之、弊車借用遣之、勾当内侍等向之、

自今日於北山殿、青蓮院、十九日 戊寅、晴、天、僧入来、談左傳、参富小路若公御談、入夜安樂寺等、主第入来、対面、一献有之、

今日青蓮院官花御覧、北山殿御出等持寺、花同御覧云々、廿日 己卯、晴、暁天、八幡神輿振入左衛門陣供人妙信、妙覚等住宅云々、此間神人乱入妙信宅了、希代悪行也、昨日被儀書少社務、不承引献、此事可申談、則少納言、宿所了、出一献、厥后、可為右佐説合了、帰路向北小路亭、少時帰、

廿一日 庚辰、晴、向東洞院会合、廿二日 辛巳、晴、女姓以下面々向、牛、王堂大念仏結縁、（余）、所向新少納言亭、終日会合、及夜更帰宅、

今日八幡御参詣也、御輿、公卿左大弁宰相、殿上人満親朝臣、教益朝臣、経豊朝臣、重房、豊光、有光、（皆直衣）、騎馬衛府侍六人、（狩衣）、天明時分御出、未斜還御、御子、若宮達、雨也、於新少納言宿所奉見之、

廿三日 壬午、晴、長政朝臣遣使、三宝院、新少納言、八幡神人、事談之、

廿四日 癸未、暁天晴、午時雨、今日七佛薬師法日中結願也、青蓮院官令修法、依兼日催、暁更伴長頼長政永藤同車参北山殿、々時御修法有之、大行道依雨儀止之、大法結願之後、内外陣幕上之、内陣隆範朝臣、為守朝臣、外陣永藤、長頼、御道同上之、次上卿右大将、坊城大納言、藤中納言、中院中納言、下官、右大弁宰相、（皆束帯）、著座、有御加持、其後右大将進大阿闍梨傍、申勸賞事、（追）、次教興朝臣、衛府侍一人引出御馬、（依雨中門）、傍官請取之、次右大将起座、取被物、置大阿闍梨前、復座、教遠朝臣取被物、次坊城大納言以下、上卿各取被物、次第施之復座、殿上人教興朝臣、隆頼朝臣、経豊朝臣、為守朝臣、重房、定頼、清長、永藤、定光、資光、長頼、長政等引被物、人数不足、永藤、長頼、長政重反了、次助修次第退、竹内僧正自持被物退出管子、從僧請取、次大阿闍梨被物、慶大僧都撤之、被物長守僧都撤之、大阿闍梨御退、藤中納言、中院中納言、下官平伏、長淳律師今一人伴僧撤香爐篋、次上卿以下起座、少時退出、

廿五日 甲申、晴早且参聖廟、今日為花御覧御出大原野東、拜見之、御馬也、乘駿、聖護院門跡、三宝院兩人共乘輿、

〔聖護院童五人共五人被具之、三寶院童四人共四人騎馬相伴之、前管領父子參仕云々、青遊院官御參会、自太秦御同道云々、直御出大原野、御掃路西芳寺御廻礼、於谷堂前 一献用意 還御一長方朝臣參仕云々、大原野一献 奉行也

廿六日 乙酉、晴、東洞院巫相 右佐・弁入道・文章博士等相伴東福寺辺、

花歴院門通寺・菩提院・東林寺・永明庵、於正樂院中首座對面、茶酒其後向普門寺、西堂種々用意、於所々賦一〇一法壽菴瓶花一見 先日北山殿 御出御 覽云々、

廿七日 丙戌、晴、今日左伝第二談之、其後向広橋亭有一献、

廿八日 丁亥、晴、向新少納言亭、參竹内殿、御共不及對面、右佐宿所説合、一献、參宮小路若公御説書、

廿九日 戊子、天晴、寅剋内裏焼失、自小御所方火出来、當時無 人々 處、不慮儀事也、雖有付火之疑、猶以不審奇異之火災也 等 言長朝臣奉負宸儀、自北門御出、可幸日野大納言亭、風下進々、仍 腰輿昇之參進云々、

神靈 御手自 二三管被召之外、御具一物不及被取出、和漢之文書。代々御記等化一時之灰、燒及重宝之紛失 内侍所無為 同 三寶院口 相 以下濟々下姿參集、日野大納言參北山殿申此由、於 橋辺、奉參入

於室町殿之由被 掃參、則臨幸、先内侍所 臨幸万里小路北行、一条西行、室町北行也、実清朝臣(束帶)、其外六位長政・師仲・教仲等也、其外皆直垂鉢奉行御共、於階下御、北山殿參会、執柄御參(御衣冠) 天明衣冠人々參集 今日入土用

今朝内侍所御坐隨身所御室礼有之、 下官参内、於門前執柄御退出、奉參会、今朝 日野大納言 右大将 坊城大納言 中院中納言 左大弁宰相 滿親朝臣(衣冠 不 如例) 實清朝臣(束帶) 定長朝臣 宗量朝臣 經豊朝臣 教興朝臣 永藤朝臣 重房(衣冠) 定顯(束帶) 清長(束帶) 長頼 長政(束帶) 知具(束帶) 師仲 教仲

正月北山殿御所進御直衣以下御服 被調之、御計会今朝被進之、希代事也、則 角珍重々々、泉口以下御会所叙覽先行可安希者候有勅 相州申 其後掃宅 以下被御覽、其後先退出、向北小路礼之落馬不及對面 相州申 其後掃宅 休息參

北山殿、以長方朝臣申入了、於彼宿處飛驒固司參会、有一献、被召日野大納言、參仕御調 小 可申談、可参内之由申候間、直向北小路亭、今夜衣冠 着用参内、今夜北山殿 内、一献、日野大納言、其後於御湯殿末

先書立之、可申候、巫相申也、入夜御参内、数剋御祇候 卅人十番也、今夜参仕人、内府有御對面、資家朝臣其外今朝人々等也、警固麁朝事被宣下由也、先例如件、仍衛府人数卷纓、長頼力古 仰其分了、 自北山殿

御衣架 御硯 御椀手洗 御盃(有口) 御茶碗 蠟燭台二対 御鏡台 御泔器 今夜御参之時、崇賢門院渡御、可被 被申之、女院御持參 通陽門院御方御服十五御手箱二色々 違中小袖三十重被進之、珍重々々、北山殿還、其後於御湯 長頼

卅日 己丑、晴、昨日被遣小袖共女房、支配、 上臈(五重) 勾當(五重) 新内侍局(四重) 播磨局(四重) 御乳母(三重) 御下二人(各三重) 女官廿四人(各一) 新内侍局一重与父母可 兩息今日参内、勘解由小路三品・定有朝臣以下火事來臨、

内裏炎上年々例、 天德四年九月廿三日夜時、大内、 貞元四年五月十一日子時、大内、 天元三年十一月廿二日申時、大内、 同五年十一月十七日寅時、大内、 長保元年六月十四日亥時、大内、 寬弘二年十一月十五日子時、大内、 同六年十月五日寅時、一條院、 長曆三年六月廿七日戌時、大内、 長久元年九月十日子時、東門院、 同四年十二月一日丑時、一條院、 永承三年十一月二日戌時、大内、 天喜二年正月七日丑時、高陽院、 同年十二月八日京極院、 康平二年正月八日丑時、一條院、 治曆四年十二月十一日未時、二條院、 承曆四年二月六日丑時、高陽院、 永保二年七月廿九日午時、大内、

卅人十番也、 仰其分了、 御茶碗 蠟燭台二対 御鏡台 御泔器 今夜御参之時、崇賢門院渡御、可被 被申之、女院御持參 通陽門院御方御服十五御手箱二色々 違中小袖三十重被進之、珍重々々、北山殿還、其後於御湯 長頼

卅日 己丑、晴、昨日被遣小袖共女房、支配、 上臈(五重) 勾當(五重) 新内侍局(四重) 播磨局(四重) 御乳母(三重) 御下二人(各三重) 女官廿四人(各一) 新内侍局一重与父母可 兩息今日参内、勘解由小路三品・定有朝臣以下火事來臨、

内裏炎上年々例、 天德四年九月廿三日夜時、大内、 貞元四年五月十一日子時、大内、 天元三年十一月廿二日申時、大内、 同五年十一月十七日寅時、大内、 長保元年六月十四日亥時、大内、 寬弘二年十一月十五日子時、大内、 同六年十月五日寅時、一條院、 長曆三年六月廿七日戌時、大内、 長久元年九月十日子時、東門院、 同四年十二月一日丑時、一條院、 永承三年十一月二日戌時、大内、 天喜二年正月七日丑時、高陽院、 同年十二月八日京極院、 康平二年正月八日丑時、一條院、 治曆四年十二月十一日未時、二條院、 承曆四年二月六日丑時、高陽院、 永保二年七月廿九日午時、大内、

卅人十番也、 仰其分了、 御茶碗 蠟燭台二対 御鏡台 御泔器 今夜御参之時、崇賢門院渡御、可被 被申之、女院御持參 通陽門院御方御服十五御手箱二色々 違中小袖三十重被進之、珍重々々、北山殿還、其後於御湯 長頼



嘉保元年十月廿四日亥時、堀川院、

天永三年五月十三日亥時、高陽院、

永久二年八月三日亥時、大炊御門内裏、

同四年八月十七日寅時、大炊御門内裏、

保延四年二月廿四日寅時、二條内裏、

同年十一月廿四日亥時、土御門内裏、

久安四年六月廿六日午時、土御門内裏、

仁平元年六月七日寅時、四條内裏、

同年十月十九日寅時、小六條内裏、

月廿八日丑時、五條内裏、

承元二年十一月廿七日丑時、閑院、

寶治三年二月一日子時、閑院、

正元元年五月廿二日子時、閑院、

文永七年八月廿一日丑時、五條大宮内裏、

同十年十月廿日丑時、大炊御門万里小路

弘安元年閏十月十三日丑時、二條内裏、

永仁五年四月十八日申時、冷泉宮小路、

建武三年正月十日夜、宮小路内裏、

三月大

一日 庚寅、天晴風靜、姑洗之洞仙參聖廟、失火七穢之由神抵證申之、不參燒跡之間、所參詣也、每月不闕儀難掛之故也、向新少納言亭、勾勘、季了

參會、終日勝負有之、尋右佐、今日計會云々、

二日 辛卯、晴、參執柄、慶朝三ヶ日時、日被卷禁中御簾、被仰兩局許也、不及陣宣下等云々、被内々御座所、鷹司家門事有之、不及委記、有一獻、召具長頼參内、余掃宅、

三日 壬辰、晴、上巳佳節參會、返事餘贈一首於北小路重相、有和

一獻、參富小路若公御説、任繼法眼招引、有一獻、其後向広橋亭、葉室禪門等參會、

有一獻等、今日被止内裏火事之時被止、其例有之故也、

自今日東方清流御祭北斗行之、御祭文頭左大弁宰相、

四日 癸巳、晴、早且向新少納言亭申談、今日若王寺御出可候御共申候、小時

掃畢、參北小路若公御説、時分重相贈一種向広橋亭、有風爐、日野重相、葉

室禪門、葉師寺僧正以下參會、有心夜會也、葉師寺

今日内裏女房達御訪返、外記分栗真庄役自去年三月今日長方朝臣伺申、

私仰土橋一珍重云々、

五日 甲午、晴、參執柄、条々御雜談今度

伝奏被仰坊城大納言了、奉行清長也、今夜有五ヶ条宣下、

浜床日時、南殿御倚子日時、吉書陣大祓上卿權大納言(公仲)、陰

陽頭在方朝臣參陣、藏人佐(清長)、一人云々、吉書官藏人方也、

六日 乙未、

七日 丙申、

八日 丁酉、晴、參富小路若公御説書、其後日野重相亭(公裏辻子、自先日

移住御方御所御里也、有風爐、今日結城越後入道論也、左衛門事私

成御教書八幡神人

九日 戊戌、晴、自明日七ヶ夜泰山府君御狀今日去月廿日太白犯守

事、可書加候、有世卿申送之、仍拔筆書改之、付奉行左大弁宰相了、其後北山寿

阿宿、右佐説合、掃路早富小路若公御説書、

十日 己亥、晴、聖護院參北山殿修大般若法給五人(隆直・教遠

・隆躬・為守等朝臣)護摩二人(僧正、範伊僧正)小二人(助修廿

口加、僧正自今日七ヶ夜也、泰山府君御祭又被行之、同七夜也、都狀有世卿勤

仕之、

十一日 庚子、晴、向新少納言宿所、其後向北小路重相亭、今夜於内侍局

一卷徒為私者所向了、今日番長遠朝臣祇候、

十二日 丑辛 晴、

十三日 壬寅 晴、向新少納言亭、終日会合、

十四日 癸卯 昼晴、夜雨、參北小路若君御説会早出執柄替、

十五日 辰甲、晴、御忌、入小施於清和院、參拜墳墓了、

今日入來、論語第六徒路了、

十六日 乙巳、晴、參北小路若君御説、其後向日野重相亭、

同八年辛巳

七月小

一日 戊子、天晴、今日北山殿五壇法日中結願也、兼日奉行新中納言(兼宣)相

觸之、仍未明伴長政參北山殿、先中壇御加持聖護院前大僧正御房着座、助修八人同

着座、(公卿キ)右大将《束帶、公行》、坊城大納言《俊任、直衣》、藤中納言《資

衡)・中院中納言《光頭、以上束帶》、新中納言《兼宣、直衣》、下官《束帶》、

西上北面着座、《寶子座也》御加持了、助修進入、右大將進阿闍梨前、仰勸賞事、  
《追也》直出透渡御所、取被物、《長政傳之》入階間置之復座、次坊城大納言又  
取被物、次教遠朝臣取裹物、次教與朝臣與衛府一人引御馬、坊官請取之、次伴僧二  
人撤御布施、又撤草座香炉宮、次阿闍梨退入、次常住院僧正率伴僧六口參着、御加  
持了、藤中納言取被物、《一重、入階間》裹物隆直朝臣取之、伴僧二人撤之、僧正  
退入、次花頂僧正率六口參着、御加持了助修退、中院中納言取裹物、《入階東間》  
僧正自取之退入、次豪融僧正參着、御加持、新中納言取裹物、《入階東二間》復座  
僧正自取之、退入、次範伊僧正參着、御加持、下官取裹物、《入階間、以上於透渡  
殿取布施》御丁聞所前階居退、次僧正取裹物退、次公卿自下臈次第退入、  
四日 辛卯、晴、今夜丑剋伏見殿回祿、代々皇居無念事也、此間入道親王御座也、  
此所修理大夫俊綱宿所也、進京極大殿、又被進白河院云々、弘安回祿被再興御所也  
云々、一字不殘、《庭田許相殘云々》禁裏回祿、今年火災公家衰微歟、  
竹園御座法灌院、《御母儀故三品〔局〕山莊也》云々、

山橫川楞嚴院鐘鑄改、銘事予成草、可申出宸翰之由所望、且嗟峨  
《東塔院鐘》、淳和天皇長四年、《同》、仁明天皇承和十二年、《西塔院鐘》、  
花園院延慶二年、《□□院鐘》、後円融院永和二年、《西塔院鐘》、皆以勅筆也、永  
和長嗣御成草、此等子細内々申入、別申請之上者、可被遊之由被仰下、仍草并料幣  
《鳥子》、付新内侍局進上之了、  
七日、甲午、昼晴夜雨、

今日北山殿花御會、御人數七十人、各一瓶、香爐香箱、《上燒納之》進之、其外小  
袖等進之、於慶御殿宿所今年御沙汰云々、

八日 乙未、微雨、今日東方清流御祭文付新中納言了、明後日祭也、

十一日 戊戌、晴、北山殿今日御出青蓮院殿、入夜還御、

十二日 己亥、晴、參富小路若公御誦、其後向三寶院、今朝被出本坊、昨日於青蓮  
院殿不飲酒之故、違上意可出京之由被仰云々、恐懼云々、

十六日 癸卯、今日聖護院僧正御房被立坊、於北山上棟也、自執柄被引進御馬飾、  
居御御殿舍人、《共以著白直垂》引之、

十七日 甲辰、日野亞相風炉、北小路亞相、葉室亞相禪門以下濟々參會、終日儀也、

廿日 丁未、詣七条道場、謁遊行上人、受十念、被《談日キ》可遊行諸國之處、為  
國之煩、只可住此道場之由仰之間、自管領承之間、化導可闕、資緣不叶之間、僧衆  
以下失食、計会云々、

廿三日 庚戌、晴、今日從三位行式部權大輔藤原朝臣元範、依所勞遂素懷云々、南  
家一流已斷絕、無念也、

廿四日 辛亥、雨降、風猛、自今日青蓮院宮於北山殿令修如法尊勝法給、岡崎僧正  
・竹中新僧正以下助修廿口歟、聖護院僧正房依護持番、今月雖令參住給、御壇所計  
会之間、今日令退出給、宮令坐其所給云々、  
自今日七夜泰山府君御祭、刑部卿有世卿於私宅行之、御都狀予草進之、  
廿六日 癸丑、今日東福寺新命松岳和尚《禪秀西堂》弟子入來、東福寺住持職事、  
御教書事帶殿中御書申之、仍長賴書遣之、  
廿九日 丙辰、晴、今日東福寺新命松岳和尚入院也、長賴為家司參向、未明出門、  
《懸牛隨心院僧正御房被儲七条東洞院》雜色四人、青侍、《信広、布衣》騎馬在  
共、於方丈有茶礼、引物《練貫一重十帖》於壽首座寮有点心等云々、

八月

一日 丁巳、天晴、告朔之儀、每年礼遣方々、四書進禁裏、假名政要進北山殿、御  
返御劔也、

今日如法尊勝法結願也、曉鐘之時分、乘車參北山殿、天明參着、人々參集之後、大  
阿闍梨《青蓮院宮》以下着座、次公卿右大將《束帶》、坊城大納言《直衣下》、  
・藤中納言《束帶》、・中院中納言《同》、・新中納言《直衣下》、・下官《束帶》、  
着座、次御加持、《尊勝呪十反》、次右大將進阿闍梨前、仰勸賞退、《追》次引御  
馬《教與朝臣・衛府一人引之》坊官請取之退入、次大將於透渡殿取被物、置阿闍  
梨前、復座、教遠朝臣取裹物、次坊城大納言取裹物、置岡崎僧正前、次藤中納言取  
裹物、置竹中新僧正前、中院中納言取助修一座裹物、新中納言《兼起座徘徊中門辺、  
為御布施奉行也》取同二座裹物、下官取同三座裹物、復座、次殿上人教與・隆直  
・經豊・隆躬・為守等朝臣・重房・定頭・清長・永藤・長賴・長政等次第取之、清  
長以下重反、定光依奉行最末取之、次助修退出、次兩僧正退入、次伴僧二人撤阿闍  
梨御布施、《先撤裹物、先々撤被物歟》次阿闍梨退給、《藤中納言・中院中納言・  
下官等平伏了》次公卿自下臈退入、御憑物方々所進於中門前被御覽之、御牛可然  
之物三頭也、此後退出、

三日 己未、晴、今日造内裏事始也、上卿三条大納言《実豊》、弁左中弁經重朝臣、  
職事藏人右少弁定頭、左大史兼治宿禰、陰陽寮五人《定繼朝臣・在方朝臣・泰嗣朝  
臣・定弘朝臣・有重》先參内、於陣被勘日時《依時刻可遲々、御免内覽云々》  
陣儀了、於《有事始儀、上卿〔同前〕》着仮屋、《西面》經豊朝臣  
・兼治宿禰・六位史盛久等着南座、《東上北面》其前《可着座之由、  
上卿雖被命之、設座於六位史對座之間、申子細不着、建長度六位史  
可為四位史對座之由申之、不及着座云々、日時到之時、番匠大工《束帶》紫宸殿

柱 斧、次檢皮葺大工（東帶）、持檢皮參進、次壁塗大工（同）、塗始、其  
後清涼殿・春興殿同前事始云々、地形被広南（長講堂分）、了、仮屋三宇今日立之、

陰陽寮

擇申可被立造土御門殿行事所仮屋雜事日時始木作日時、

今月三日己未、時午二点、（若未、）

堅柱上棟日時

十六日壬申、時巳二点、（若午、）

立柱次第、（先東、次西、次北、次南、）

応永八年八月三日宮内權大輔兼小允安倍朝臣有重

權 助賀茂朝臣定広

修理權大夫兼權天文博士安倍朝臣泰嗣

頭兼曆博士賀茂朝臣在方

權曆博士賀茂朝臣定繼

陰陽寮

擇申可被始造土御門殿行事日時

今月十六日壬申、時申二点、（若酉、）

応永八年八月三日連署同前

陰陽寮

擇申可被造作土御門殿雜事日時

始木作日時

今月三日己未、時午二点、（若未、）

居礎日時

十月四日己未、時巳二点、（若午、）

堅柱上棟日時

十六日辛未、時午二点、（若申、）

立柱次第、（先西、次東、次南、次北、）

応永八年八月三日連署同前

自今日於北山殿、青蓮院宮令行熾盛光法給、護摩壇岡崎僧正也、其外助修廿口云々、  
脂燭殿上人、教遠朝臣・教興朝臣・隆直朝臣・隆躬朝臣・為守朝臣等皆束帶也、奉  
行新中納言等參仕云々、御祭文予草進之、  
今日亥剋從三位行式部權大輔藤原朝臣元範（去月出家、年七十二、）帰泉、南家一  
流也、如断絶、無一子不便、當時僧中無人、如形筆削人、可惜々々、

四日 庚申、晴、今日北野祭神輿還幸也、先日喧嘩之間、駕与丁不可帶腰刀之由、  
有御下知、早速無為還御也、北山殿有御見物云々、

北山殿姫君、昨日為崇賢門院御猶子渡御、令成御喝食給、自今日女院・寝殿御方被  
伴申、御參籠北野云々、

北野臨時祭、奉行頭右中将実清朝臣、使長頼、乘燭參内、御禊陪膳実清朝臣、役送  
清長、宮主兼村、宣命上卿藤中納言、長頼賜宣命參社頭、半更帰了、

七日 癸亥、晴、今日今上一宮（新典侍御腹）御事、日来聊有沙汰、未御座御座  
所、《御乳母宿所也》而無子細、日野大納言可奉養育之由、自北山殿被仰云々、仍  
今日内々進御迎御輿、奉入彼大納言亭《内裏前也》云々、珍重々々、

九日 乙丑、今日自將軍家朔日御返被下、御馬《鹿毛駁》富樫奉行也、

十日 丙寅、晴、今日熾盛光法日中結願也、取松明參北山殿、人々天明後參集、大  
阿闍梨以下御着座後、公卿右大将・坊城大納言・藤中納言・中院中納言・新中納言

・下官《装束等同朔日》着座、次御加持、有衲陀羅尼、次大将

事《青蓮院新門主法印尊滿、令任權僧正給》復座、次教興朝臣引御馬、《衛府一人  
同引之》坊官請取之、左引廻了

取被物、教遠朝臣取被物、次坊城大納  
言取被物、置岡崎僧正前、次藤中納言・中院中納言・新中納言

物引、

助修復座、但新中納言依奉行布施事於中門進時於中門取之、《公卿皆長政伝之》、

以殿上人教興朝臣・経豊朝臣・隆直朝臣・隆躬朝臣・為守朝臣・重房・定頭・清長

・永藤・定光・資光・長頼・長政次第引之、人数不足、永藤・長頼・長政重反了、

助修自下臈退、僧正自持被物退、於寶子伴僧賜之、次阿闍梨布施《先被物、次被物》、

伴僧二人撤之、次大王令退給、此間藤中納言・中院中納言・余平伏了、次公卿自下

臈次第退出、午一點也、

十一日 丁卯、晴、今日絶海和尚相国寺入院也、

十四日 庚午、放生会宣命、付勾当内侍了、

十五日 辛未、放生会奉行定頭也、上卿日野大納言（資教）、參議通守朝臣、弁豊

光、次將隆直朝臣、右馬頭兼教朝臣、少外記——六位史盛久等参向、時刻早速、上

卿等申剋帰京了、

月食也、子一剋五十一分虧、復末子五剋七十七分云々、今夜明々無雲、蝕不正現、

先例有不現事之由、曆道申之云々、御折金剛王院頼俊僧正也、雖申請勸賞給旨、蝕

当否御不審之間、不賜之云々、

十六日 壬申、晴、今日造内裏行事所屋立柱上棟也、弁経豊朝臣、史兼治宿禰等參

着云々、

駒牽、依上卿故障延引、

廿二日 戊寅、晴、自今夜北山殿御參籠聖廟、当季旁計会上、公家人無祇候、仍不參候、

廿五日 辛巳、雨降、今日元長方路事、執柄御下知、実清朝臣則宣下、上卿藤中納言(資衡、)也、長遠朝臣為嫡孫、故殿御舉也、仍模彼例、愚身狀状也、

九月小

二日 戊子、雨降、自明日天曹地府御祭文付奉行新中納言了、去月廿三日癸惑犯慎星事、可書載之由、有世卿令申之間、書加之、

三日 己丑、雨降、自今夜於北山殿聖護院前大僧正御房被修金剛童子法、脂燭五人《教遠・教興・隆直・隆躬・為守(等キ)朝臣》也、助修廿口、五壇云々、

天曹地府御祭、同自今夕被始行、刑部卿有世卿勤仕之、

七日 癸巳、晴、早且向勘解由小路一禪亭、來十日大法結願、着座事、老躰粉骨不便思食、仍御(優免キ)被仰他參議云々、今日日野大納言・坊城大納言・中院中納言以下皆不被仰、他人被仰之云々、

九日 己未、晴、今日平座、納言不參、日野宰相為參議奉行、少納言範輔朝臣、一献云々、奉行藏人佐清長也、

十日 丙申、晚雨属晴、今朝北山殿金剛童子法日中結願也、今度着座公卿、三条大納言(実豊、)・藤中納言(資衡、)・洞院中納言(実信、)・新中納言(兼宣、)・四

条宰相(隆信、)等也、殿上人、教遠朝臣《大阿闍梨裹物》・教興朝臣(御馬引之、)・隆直朝臣《裹物常住院》・隆躬朝臣

大阿闍梨二重《三条・藤中、》一裹、御馬一疋、定光等也、勅賞追可被仰云々、頼昭僧正《新中取裹物、》・豪猷僧正《裹物、》・弁替法印《定光取裹物》助修廿口云々、奉行新中納言、

十一日 丁酉、晴、今夜例幣、上卿花山院中納言、先參内、宣命長頼草進、參役權大外記重貞勤代、奉行職事藏人佐清長、上卿等參神祇官、少納言範輔朝臣、弁豊光云々、

十二日 戊戌、向勘解由小路一位禪門許、吉祥院四ヶ里内田島、下司則兼以下輩沽却事、不可然、伺申御教書、無子細下知飯尾美濃入道奉書給云々、仍謝之、則持向美濃入道許、明後日可伺申之由申之、請取了、

十三日 己亥、晴、今夜禁裏御會、有勅喚、仍入夜參仕、於十五間有御會、三条大納言・余・吉田宰相(執筆、)・長遠朝臣・定頼・清長・長頼等祇候、御発句、《名

にもてる杪の秋の月よかな》入韵余申之、桂傳天曆芳、有百韵、及日出、終夜御

酒及乱舞、勅盃兩度直被下之、剩御約祝着之、有御短冊、五十首也、五首兼被下之、詠進不及披講、被取重之、御人数、四辻左府禪門・左府・日野大納言・飛鳥井中納言入道・下官・冷泉宰相・高倉宰相入道等也、勅題也、

十四日 庚子、晴、伝聞、北山殿今日御出宇治、松茸御賞翫之、青蓮院宮・聖護院門主・三宝院僧正等參仕云々、

十六日 壬寅、今曉北山殿御出兵庫、姫君御方・寢殿・高橋殿・池尻殿被伴申、青蓮院宮・聖護院・三宝院僧正等下向、前管領・右京大夫以下御共云々、高麗船着岸被御覽、又御道遙料云々、

今日北小路相・葉室禪門・四辻黃門・高倉宰相入道以下數十人連歩、出神樂岡、日野相參詣日吉焔洛、一献張行料也、於吉田馬場辺有献酬、其後面々又同道罷向

北小路、暮飯以下会合終夜也、愚身早帰、御留守中会合料面々各出也、

十七日、早且向北小路相第、有大飲、其後相伴長頼、向土岐宿所、極隨身之、大宮中将招引大飲、送御白太刀、祝着之、

十八日 甲辰、朝雨、早且參聖廟、參広隆寺、向嵯峨雲居庵、北小路相并相州、向彼塔頭、可参会之由兼約之間、所向也、点心時分也、国師(空谷、)・地藏院長老

・珣西堂等相伴也、相一秀一語平家、其後有時、々以後向西芳寺、日野相・葉室禪門・四辻黃門・高倉相公禪門以下廿人許相伴、面々各出也、於西芳寺池乘船、

北小路相発句、《峯、)ふる時雨は谷の紅葉かな》入韵余、池隨無尽秋、詩一篇題之、予早帰、面々今夜逗留、

廿六日 壬子、晴、今朝自兵庫還御也、今曉自禁野云々、參北山殿、謁長方朝臣、有一献、今日持參菊進入御所、

廿八日 甲寅、向廣橋、極隨身、吉祥院領御教書、飯尾美濃入道書上之、御判事為伺申付遣御教書了、念可申出之由也、

廿九日 乙卯、晴、九月盡御賞翫、五十首和哥御短冊、勅題、賜人々、御製(七首、)・四辻左府禪門(七、)・左府(六、)・日野大納言(六、)・飛鳥井中納言入道(七、)・

下官(五、)・高倉宰相入道(五、)・為尹朝臣(七、)等也、皆被取重之、不及披講、